

遠いあの日の唄が
きこえ

むかし遊び

はじめて

現代っ子たちも石けりやゴム飛び、だるまさんがころんだやままごと、それに陣地遊びが大好きです。なつかしのむかし遊びとはいっても、その多くは今も変わらぬ人気を集めているものなのです。なかでも、おなじみの折り紙やあやとりは、すでに江戸時代に大流行したという歴史の古い遊び。その昔、着物姿の子供たちに愛された、その遊びが今に受け継がれているかと思うとなんだか不思議な思いがすると同時に、その寿命の長さに改めて感心させられます。

さて、遊びに変わりはないものの、ただ一つ、つくり出す喜びがあるかどうかという点で、今の子供たちと昔の子供たちの遊び方には大きな違いがあります。おもちゃの少なかった昔の子供たちは、竹やら石ころ

やら草花やら身近にある材料を駆使して、自分たちの手で、おもちゃを、そして、遊びをつくり出しました。鉄砲遊びひとつにしても、むかしの子供たちは自分たちがつくった割りばし鉄砲や豆鉄砲を使いましたが、今の子供たちは買ってもらったプラスチックのおもちゃのピストルで遊びます。

子供たちは遊びを通じて物ごとを体験し、確信し、人間として生きていく上に必要な知恵や創造や工夫など大切なことを、そこから学んできます。それだけに、周囲がおもちゃにあふれた今の子供たちが、遊び本来のもつ喜びを味わえなくなったことはとても残念な思いがします。

メンコの響きやベーゴマのうなる音、そして鬼唄の旋律を、郷愁とともに思い起こされる方も多いと思います。この本を通して、子供たちと一緒になつかしのむかし遊びに興じながら、その喜びを伝えて下されば幸いです。

遠いあの日の唄がよみがえる

むかし遊び

伝承の遊び

お手玉 おさらい、投げ玉、お手玉の作り方：10

ビー玉 島出し、星ビー、円、ホール、ビー玉のにぎり方、穴一、目玉落とし：13

石けり ごといき、やつこさん、かくい、丸とび、かたつむり：16

おはじき おぼね、しきり、おやつ：18

ベーゴマ 遊び方、トコ、オカマ、ひもとたんこぶの作り方、ベーゴマの持ち方、男巻き、女巻き：20

メンコ メンコの持ち方、おこし、つみ、はたき、ぬき、さばおり、すべり、日本、たちぐわえ：22

カンけり …… 26

陣地遊び 水雷艦長、S陣、宝島、たごつぼ … 28

クギさし かこみ、蚊取り出し、一本出し … 30

ゴムとび 女とび、逆立ちとび … 33

馬乗り 馬乗り、カカシ、燈台とび … 34

あやとり ほろつき、富士山にかすみ、はしご、ふたりあやとり … 36

ままごと 巻きずし、フキのかご、マツ葉と木の葉の秤 … 42

草木ずもう … 44

だるまさんがころんだ … 46

手合わせ遊び 夏も近づくと八十八夜、すいすいすところばし、おなべふ、お寺のおしょうさん … 48

絵描きうた コックさん、ピエロ、とんぼ、かまきり、てんとうむし、蛸入道、フタ、金魚 … 52

とおりやんせ とおりやんせ、花いちもんめ、かごめかごめ … 54

珍品・奇品

竹返し おごし、たて、まえ、わけ、竹べらの作り方 …… 60

みかん遊び みかん釣り、みかんのタコ、手かご …… 62

たが回し たが回し、押し棒 …… 63

貝遊び 貝ぶるい、貝コ押し、ハマグリの笛 …… 64

折り紙占い 折り紙占いの作り方 …… 66

こより遊び こよりつくり、こよりゲーム …… 67

いっこじよ …… 68

作つて遊ぶ

たこ ほねなしだこ、角だこ、エイだこ …… 70

竹馬 竹馬の作り方、かつお節けすり、空きカンぽっくり …… 72

紙ひこうき

三角飛行機、いか飛行機、つばめ飛行機 … 74

竹とんぼ

竹とんぼの作り方、飛ばし方 … 77

てっぽう

紙鉄砲、わりばし鉄砲 … 78

こま

ひょうひょう栗、ブンブンごま、どんぐりごま … 80

折り紙

キツネ、風船、だまし舟 … 82

あぶり出し

… 85

ハンカチ遊び

ハンカチバナナ、ハンカチかめ、ハンカチいか、ハンカチねずみ … 86

草花で遊ぶ

おしやれ遊び

花かんむり、髪飾り、かんざし、指輪、腕時計、マニキュア、おしろい … 90

草笛

タンポポの笛、カラスノエンドウの笛、巻き笛、重ね
笛、スズメノテッポウの笛、ササの葉の笛、クリの笛 … 92

変装ごっこ

口ひげ、キツネのお面、天狗のお面、マツ葉のめがね … 94

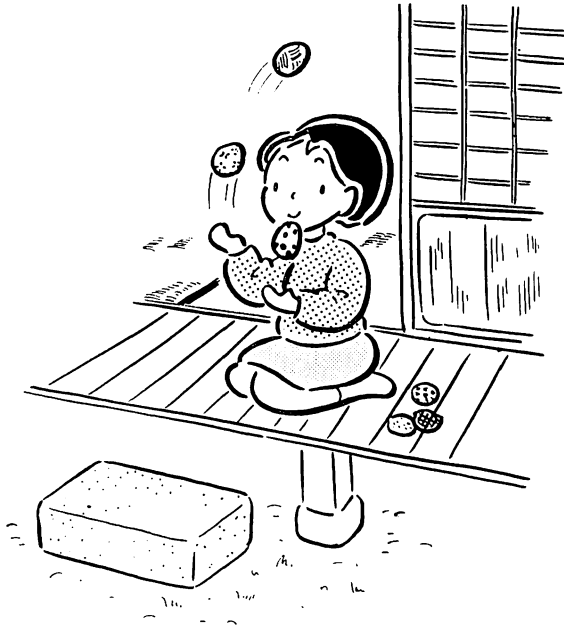


遠いあの日の唄が
オキオキ入る

むかし遊び

伝承の遊び

お手玉



母が小学校に上がった年、母のひいおばあちゃんはぎは端切れのちりめんあずきで小豆を入れた五個のおじやみ（お手玉）を作って渡してくれたといいます。

平安時代のてんじょうびと殿上人の遊びだったお手玉が、女の子の遊びとして定着したのが江戸、元禄げんろくの世。その後、祖母から母へ、母から娘へと手づくりのお手玉が手渡され続けてきました。

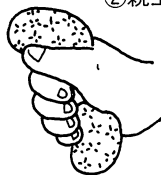
お手玉には投げ玉遊びとつき玉遊びがあります。三個、四個のお手玉を宙に舞わせる、おなじみの遊び方は投げ玉です。つき玉は、いくつかの玉を床にまき、親玉を放り上げ、落ちてくるまでに下の玉を拾い上げるという遊びです。つき玉の

おさらい

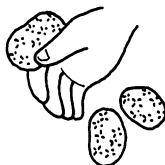
- ①親玉を投げ上げ、落ちてこない間に床のお手玉一個を拾う



- ②親玉を受け取る



- ③続いて親玉を投げ、その間に二個を拾う



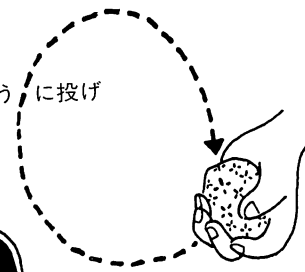
- ④こうして五個拾えるまで続ける

なかでも「おさらい」と呼ばれる遊びは人気がありました。親玉一個と子玉五個を使い「おひとつ」と唄いながら親玉を放り上げていくうちに子玉を一つ取り、その手で落ちてくる親玉を受けます。子玉だけ落としておいて、次に「おふたつ」と唄いながら、親玉を放り上げている間に、今度は二個の子玉を取ります。こうして五個まで取れたら「おさらい」。

投げ玉は二個の玉から始めて、数を増やしていきます。上手な子は手の玉を移してかえつつ、三個、四個の玉を宙に舞わせたり、片手だけで三個の玉を舞わせることもできました。

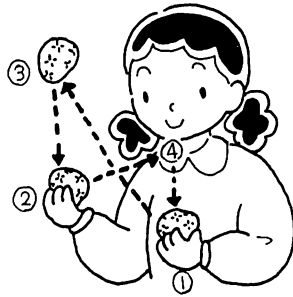
投げ玉

円を描くように投げ
て取る

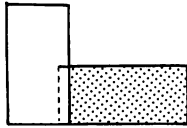


片手に二つ持って交
互に投げて取る

片手のお手玉を投げ
ると同時に、もう一
方の手のお手玉を受
け取る

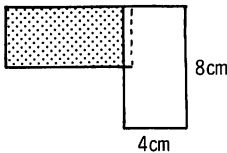


三つのお手玉を斜め
に放り上げて取る

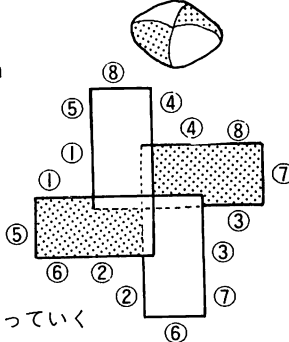


(B)

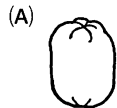
お手玉の作り方



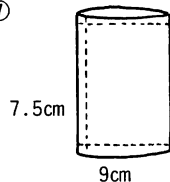
①図の寸法の布
を4枚使う



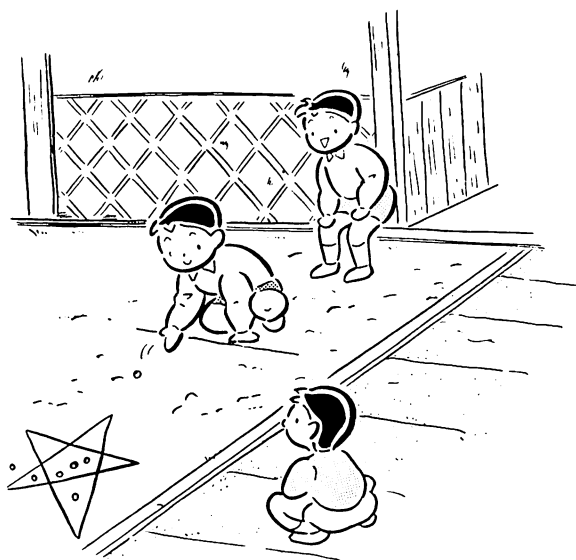
②数字を合わせて縫っていく



点線を縫う

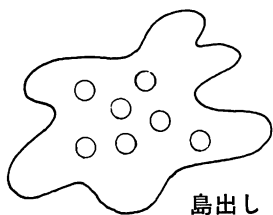


ビー玉

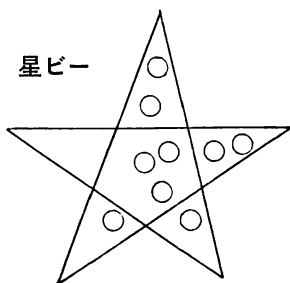


「ビー玉はメンコと並んで男の子遊びの代表格だった」と、昭和生まれは言います。当時の男の子たちにとって日常欠かせない存在だった「ビー玉」。学校が終わるなり、路地に集まったわんぱく坊主たちは、明けても暮れてもビー玉遊びに熱中しました。メンコやビー玉は学校に持って来ることを禁止されていましたが、それでも休み時間になると、先生の目を盗み、校庭の隅すみに隠れてビー玉をする子どもたちもいました。

ビー玉の遊びの基本は、自分のビー玉を投げて他の玉に命中させれば取れるという単純なものです。これをもとにして、「子どもたちは「島出し」「星ビー」「円まる



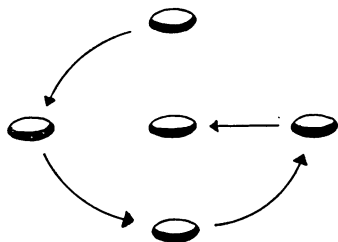
鳥出し



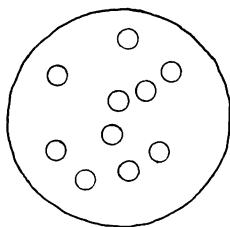
星ビー

ホール

ビー玉を穴の中に順番に入れて回っていく遊び。最後の穴に早く着いたら勝ち。

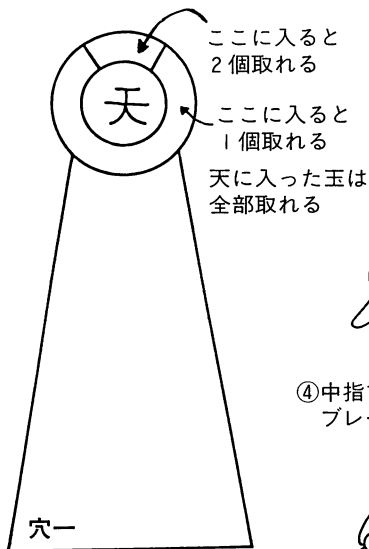


円



それに「穴」「ホール」など、さまざまなビー玉遊びを考え出しました。勝負の前に、まず順番を決めるための順決めをします。三、四メートル先に線を引き、それぞれ一個ずつビー玉を投げて、最も線に近い子が一番になります。ただし、線から出るとビリです。

「鳥出し」「星ビー」「円」は遊び方が似通っています。三メートルほど先に鳥や星や円を描き、決めた数のビー玉を出し合って図の中に置きます。そして、順決めの際に、各自が親玉を投げ、図の中にあるビー玉に当てて弾き出せば取れるというものです。ただし、投げた親玉が図の中に残ると失格になります。勝負は



ビー玉の打ち方



①狙いを定めやすいにぎり方



④中指ではじくと途中でブレーキをかけられる



②親指ではじく



⑤遠くへとばすときは、腕の振りを利用する



③手の幅一つ近づくことができるルール有的时候は、ビー玉があった位置に小指をつける

みんなが同じ数のビー玉を出し合い、集めた全部のビー玉を一人ずつ円に向かってころがす。天に入ったビー玉だけもらえる。次の子は前に残った玉を集めて同じようにころがす。



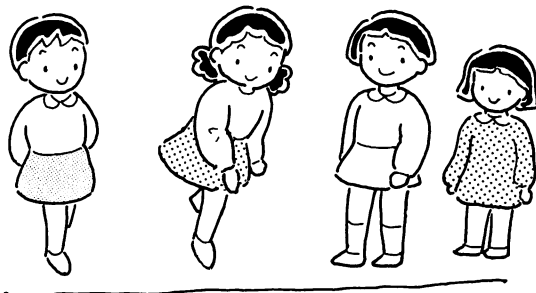
目玉落とし

目の高さから地面のビー玉に当てる遊び

図の中のビー玉がなくなるまで続けられ、子どもたちは暗くなるのも忘れて夢中で玉を追いました。

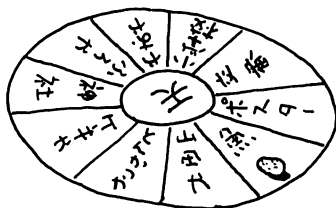
このほか、手を広げて、伸ばした指が自分の玉と相手の玉につけば取れる「尺とり」や、目の高さから落として命中させる「目玉落とし」など、いろんな決まりをつくり出しては勝負を盛り上げました。

石けり



どこいき

3メートルほど離れた線から円の中に石を投げ入れる。全員行き先が決まったら、スタートラインに集まり、ヨーイ、ドン!で走り出し、目的地にタッチして戻ってくる。天に入ったら休み。



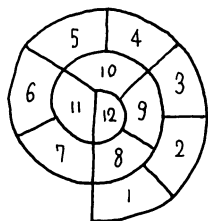
ものなかつた時代、石ころ一つあればできる石けりは、子どもたちを大いに湧かせました。どちらかというとなの子に好まれた遊びですが、わんぱく坊主たちも「どこいき」など、ゆかいな石けり遊びを考え出して楽しみました。「どこいき」は、風呂屋、学校、駅、神社など行き先を書き入れた円形の図に石を投げ、当たった場所に走って行って証拠になるものを取って帰ってくるという遊びです。最近の小学生たちに石けり遊びとしてもはやされているのも、この「どこいき」です。

石けりの基本は地面に描いた図の1のところを石を投げ入れ、この石を片足の

5	10
4	9
3	8
2	7
1	6

かくい

1に石を投げ入れ、片足で1から5までけり進む。5で線の外にけり出した石を拾い、6に投げ入れる。片足で5から1へと戻り、今度は6から10へとけり進む。

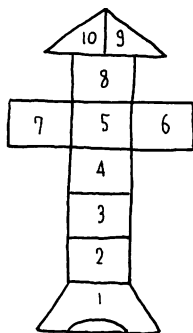
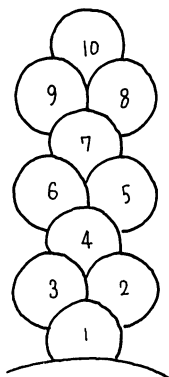


かたつむり

1に投げ入れた石を片足で12までけり進み、またそのまま1まで戻り石を線の外にけり出す。次は2に石を投げ入れ、同じやり方で12まで進んで、また1まで戻り1の線の外に石をけり出す。

丸とび

1に石を投げ入れ、2、3に両足で立ったあと、片足、両足の順で10まで行って戻ってくる。帰りには2に片足で立ち、石を拾って戻る。

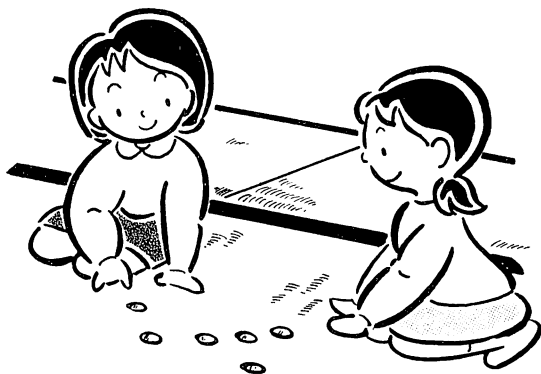


やっこさん

1に石をいれ、2から5へと片足で進み、6と7は両足で立つ。8は片足で、9と10は体を反転して1の方に向き両足で立つ。再び1に戻り、石を拾って線の外に出て、2へ進む。

ケンケンとびで、2、3と順にけり進みます。また、「ケンパ」といって、1に投げ入れたら、それをとび越し、他のますを片足、両足、片足ととんで往復し、帰りに1の石をとって戻るといって遊び方もありました。図形もやっこさん、丸とび、かくい、かたつむりなど、数知れず子どもたちはいろんな石けり遊びを編み出しました。

おはじき



- ①決めた数のおはじきを出しあう
- ②両手でよく振る
- ③散らばるようにまく

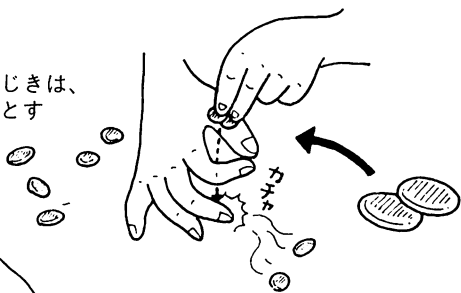
縁だまりの縁側えんがわや畳の上で女の子たちは、おはじき遊びに夢中になりました。透明なガラスに白や赤、青などの色が入ったおはじきは、陽に映はえてキラキラ光ります。そんな美しいおはじきは女の子たちの宝物でした。

まずジャンケンで順番を決め、十個出したら、一人十個ずつおはじきを出し合います。勝った子は、このおはじきを両手にとって床にまき散らします。重なおはじきは「おぼね」といって、取り除のぞいて次の人に回すか、指の間からもう一度まきます。

弾はじく前に必ず「しきり」といって、当てようとするおはじきとおはじきの間に

おぼね

重なったおはじきは、
指の間から落とす



しきり

当てようとするおは
じきの方に指を通す

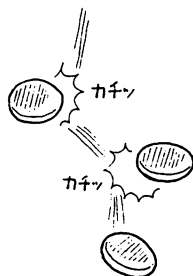
しきりをしたおは
じきを当てれば取
れる



最後に残った二個は、
十回連続で当てなけ
ればならない

おやつ

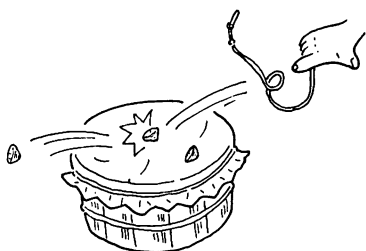
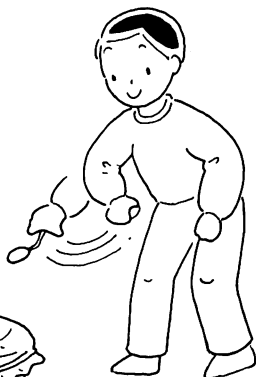
しきりをした以外の
おはじきに当たると
失格。おやつをする
と、今まで取ったお
はじきは全部取り上
げられる



線を引くように指を通します。指で弾いて、しきりをしたおはじきに当てれば一個取ることが出来ます。弾いたおはじきがどこにも当たらなければ次の人と交代。また「おやつ」といって、しきりをしたおはじき以外のおはじきに当たると、今まで取ったおはじきを全部取り上げられます。

おはじきが最後の二個になったら「一ちよすい 二ちよすい 三ちよすいでとれた おまわしおまわし ネーコの目」と唄いながら、十回連続で当てなければ取れません。他に最後の二個を一個ずつ取るやり方もあり、女の子たちはいろんな遊び方で楽しみました。

ベーゴマ



相手のコマをはじき出すと勝ち



ベーゴマをはなした瞬間に、手前に強く引く。引きが強いほど力がつく



オカマ

トコの上で裏返されると負け

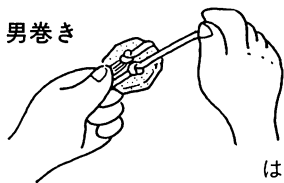


男の子の遊びとして一世を風びしたベーゴマは、あまりに熱中して、登校時間に遅れたり、授業をさぼったりする子どもたちが続出し、学校からたびたび禁止令が出されました。しかし、禁止されればされるほど、その熱はさめやらず、大正時代に始まったベーゴマブームは昭和まで続きました。

まず、木の桶おけにゴザやゴムをかぶせ、中央をくぼませて「トコ」と呼ばれるベーゴマの舞台をつくります。このトコの四方からベーゴマをまわして投げ合って競います。弾き出されたり、倒されると負けになります。

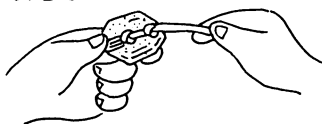
子どもたちは強いベーゴマをつくり出

男巻き

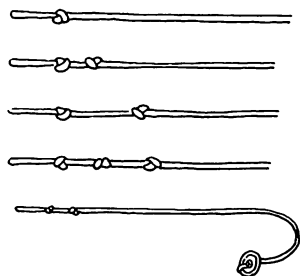


はじめの2~3
巻をきつく巻き、
後は軽く巻く

女巻き



ひもとたんこぶの作り方



ペーゴマの持ち方



小指に巻き
つける

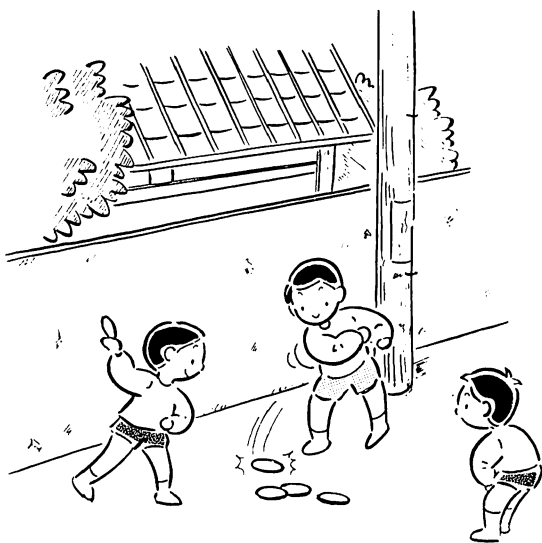


にぎり方を
上から見た
ところ

すために必死になりました。ペーゴマは駄菓子屋で売っていましたが、買ったペーゴマをいろんな方法で強化するので。コンクリートでペーゴマの底を削って低くしたり、まわりをギザギザに削ったり、またコマの表面に鉛やロウを溶かしつけて重くしたり、どの子もより強いペーゴマをつくることに懸命でした。

ペーゴマのひもの巻き方には「男巻き」と「女巻き」がありました。ひもの先をなめるときっちり巻けるといって、わんぱく坊主たちはまっ黒になったひもの先をなめては、真剣な面もちでひもを巻いたものです。

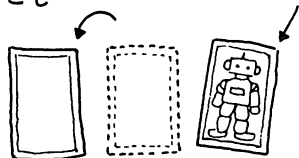
メンコ



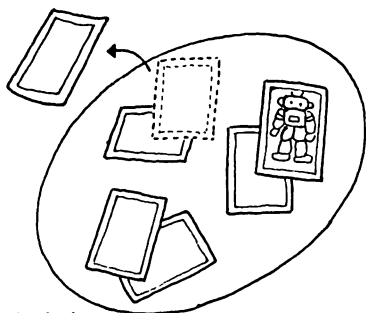
男の子たちはメンコに限らず、ベーゴマでもビー玉でも自分の持っている中で一番強いものをダシガンとかダツチャンと呼んで、ここ一番の勝負の時、切札きり札として使いました。ダシガンやダツチャンは男の子たちにとって、それこそ命より大切なものでした。

ベーゴマ同様、より強いメンコをつくり出すため、子どもたちは一生懸命にやりました。風が入らないように四隅を折ったり、軽く曲げてくせをつけたり、ロウや油を塗って重みをつけたり、また縁へりを厚くするためにコンクリートにこすりつけたり。こうして心血を注いでつくり出された、一番強い切札がダシガンだっ

おこし

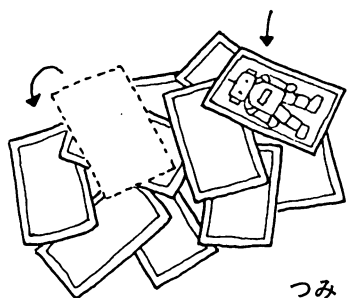


相手のメンコを裏返し
にすれば取れる



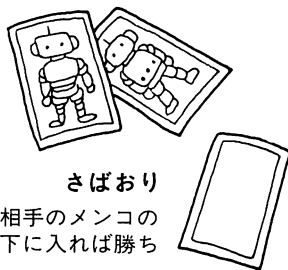
はたき

メンコを円の外に出せば取れる



つみ

山にしたメンコをたたいて、
山の上でメンコを裏返しにす
れば、全部のメンコを取れる



さばおり

相手のメンコの
下に入れば勝ち

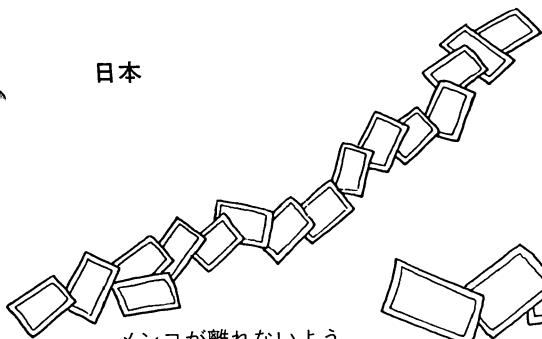
たのです。

明治、大正、昭和にかけてブームの続いたメンコは、全国いたるところに流行しただけに、ベツタン、パッチンなど、各地方によって呼び名が違います。

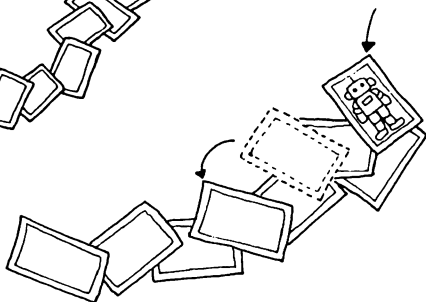
メンコ遊びの基本は「おこし」。地面に置いた相手のメンコに自分のメンコをたたきつけて裏返しにすれば取れるという、いたって単純なものです。ところが、子どもたちはこの「おこし」を基本に「つみ」「はたき」「ぬき」「さばおり」「すべり」「日本」「たちぐわえ」など、それぞれ無数のメンコ遊びを生み出していったのです。

例えば「ぬき」は、出し合ったメンコ

日本

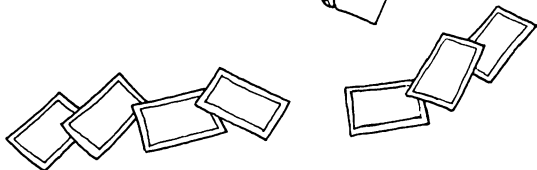


メンコが離れないように、交互に打ち並べていく。5枚ずつ打ち終えたら勝負が始まる。



自分のメンコをたたいて場のメンコを裏返せば取れる

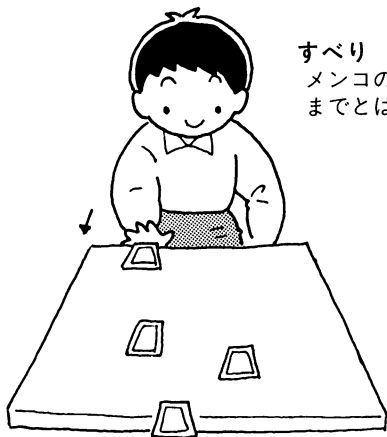
場のメンコが離れてしまうと、その時点で負けになる



ただし「つぎ有り」というルールを決めていた場合には、自分のメンコを1枚出して継ぐことができる

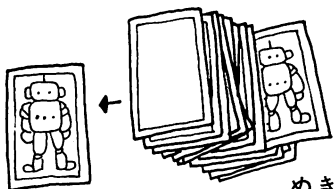
を積み重ね、あらかじめ決めておいたメンコを抜き出せば山ごともらえるというもの。また、交互に何枚かのメンコを横につながるように打ち出してから勝負する「日本」は、その形が日本列島に似ているために、この名前がつけられました。そのほか、地面に「女」という字を描き、真上からメンコを落として、重なったら取れる「たちぐわえ」など、愉快なものもあります。

メンコの打ち方にもいろんな技が開発されました。体を動かすときに起きる風をうまく使うのも、その一つ。いくら練習しても風が起こせない子は、わざわざ袖口の広い服を着て風を起こしやすくし



すべり

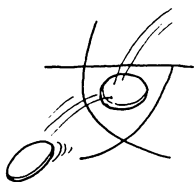
メンコのはじをたたいて、いちばん遠くまでとばしたら勝ち。落ちると負け



あらかじめ決めておいたメンコをはじき出したら全部取れる

たちぐわえ

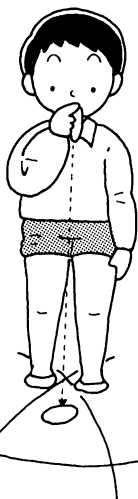
①地面に女という字を描き、丸メンを落とす



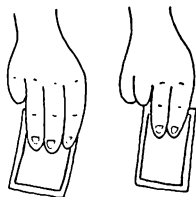
②上に乗ったら相手のメンコを取れる



③「下ぐわえ」すれば10枚もらえる



メンコの持ち方



ました。
男の子たちにとって、メンコは真剣勝負だったのです。思いきり打ちつけすぎて手に血がにじもうと、おかまいなしで勝負に熱中しました。

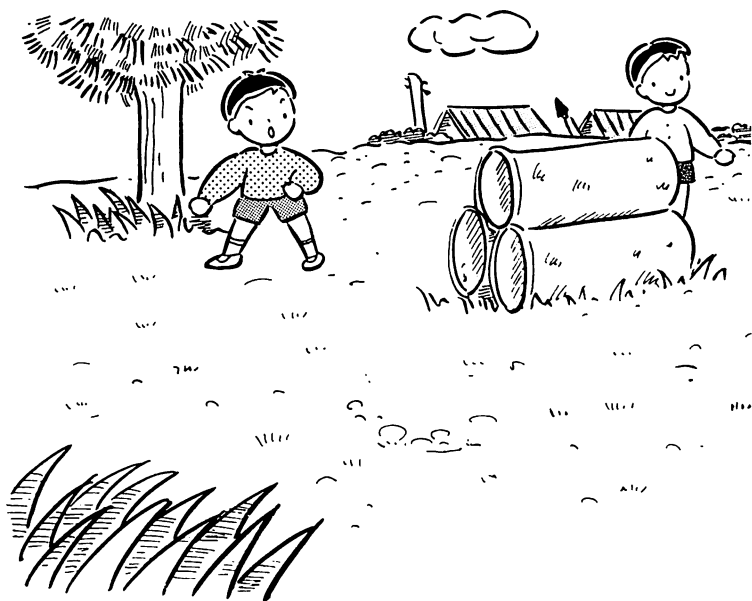
カンけり



カンけりは、隠れんぼや鬼ごっこ、陣とりにもボール遊びなど、さまざまな遊びがうまく組合わされています。だからこそ、男の子たちにあれほど人気があったのでしょね。

まず、ジャンケンで鬼とけり役を決め、地面に小さな円を描いて、その中に空カンを置きます。けり役がカンを思いきり遠くへけとばすと、みんなはいっせいに物陰ものかげに隠れます。鬼はけとばされたカンを円の中にもどしてから、隠れている子を探しに行きます。

鬼に見つけられ「○○ちゃん、見つけた」と呼ばれて、カンを足で踏まれてしまえば、鬼を交代しなければなりません。



ん。しかし、鬼はカンが円の中にある間しか動くことができないので、もし鬼に見つかったても、鬼が足でカンを踏む前に、見つけられた本人やほかの仲間がカンをけり出してしまえば助かります。鬼がカンを円の中にもどしている間に、また隠れることができます。

隠れている子どもたちは隙^{すき}あらばカンをけろうと身構えているので、鬼はつねにカンに注意しながら探さなければなりません。ける方も鬼に見つからないようにカンを遠くまで飛ばさないと自分が見つかってしまいます。このかけ引き、スリルとスピード感がカンけりの醍醐^{だいご}味なんですよね。

陣地遊び

S 陣

二組に分かれて、相手陣地の宝に早くタッチした方が勝ち。

「出陣！」の合図で出入口から出動し、相手陣地に攻め込んでいく

陣地の外は片足とびで進む



円の外に手をついたらアウト
外に足が出てもアウト

陣地と島では両足立ちできる

男の子は戦争ごっこが大好きです。ちやんばらごっこや鉄砲遊びもさることながら、敵味方に分かれて体ごとぶつかり合う「陣地遊び」は男の子たちの血を湧かせました。

その名の通り、敵の陣地を奪い合う陣地遊びにはいろんな遊び方がありました。なつかしいところでは「水雷艦長」。艦長（一人）、駆逐艦（二、三人）、水雷（二、三人）と三つの役があり、誰がどの役かわかるように帽子のかぶり方で区別しましたが、覚えていますか？ さて、艦長役はつばを前にまっすぐに帽子をかぶりましたが、駆逐艦役、水雷役はどんな風に帽子をかぶったでしょう？



水雷艦長

艦長（1人）
帽子をまっすぐかぶる
駆逐艦に勝ち、
水雷に負ける



駆逐艦（2～3人）
横にかぶる
水雷に勝ち、
艦長に負ける

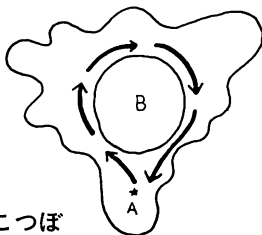


水雷（2～3人）
後ろにかぶる
艦長に勝ち、
駆逐艦に負ける



宝島

宝物にタッチしたら
Aの勝ち



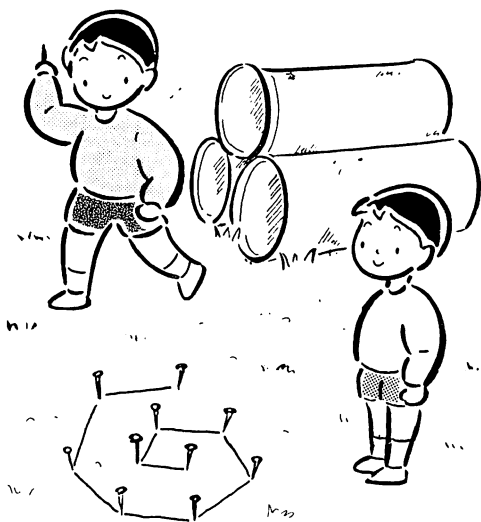
たこつぼ

Bにつかまらないように、
B陣地の周囲を回る

S字形の陣地を描く「S陣」も人気がありましたね。二組に分かれ、相手陣地の宝に早くタッチした方が勝ちとなりますが、陣地外は片足とびで進まないといけないとか、味方の島に逃げ込めば安全だとか、いろんなルールがあつて、敵も味方も盛り上がったものです。

そのほか、探検隊と海賊に分かれ、海賊の宝をねらう「宝島」や、二組から一人ずつ出陣して一騎打ちする「陣とり」、また陣地の周囲をまわる組と、それを引き込む組に分かれて戦う「たこつぼ」などは数知れません。

クギさし

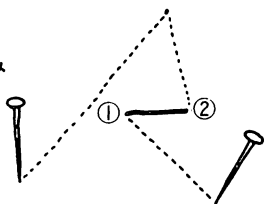


子どもたちは遊びを發明する天才です。木の枝ひとつ、クギ一本から、いろいろな遊びをつくり出します。

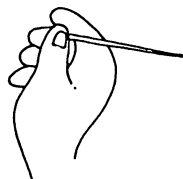
「クギさし」と呼ばれる、クギを使った遊びが大流行したことがあります。地面に円を描き、その中にクギを打ち込んで、相手のクギを倒すか、円の外に弾き出せば、自分のものにできるといふもので、もともとは「ねつき」と呼ばれ、木の枝を使ったものでした。ナシやモモを剪定せんていした後、切り落とされた先のとがった枝から、子どもたちがつくり出した遊びです。

ところが、クギを使うようになってからというもの、子どもたちは「蚊取り出

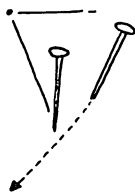
かこみ



2人で遊ぶときは、
線の両側からスタートする

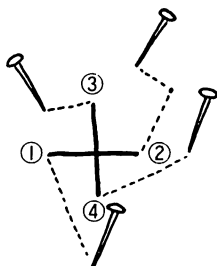


クギの持ち方

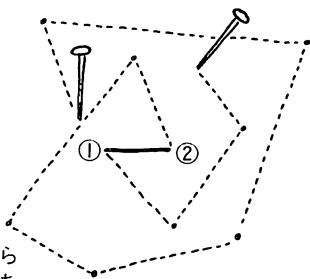


線にかからないように出なければならない

4人のときは十字を描く



相手を囲んで出られなくすれば勝ち

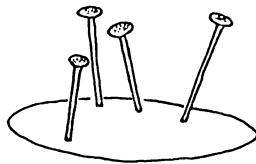
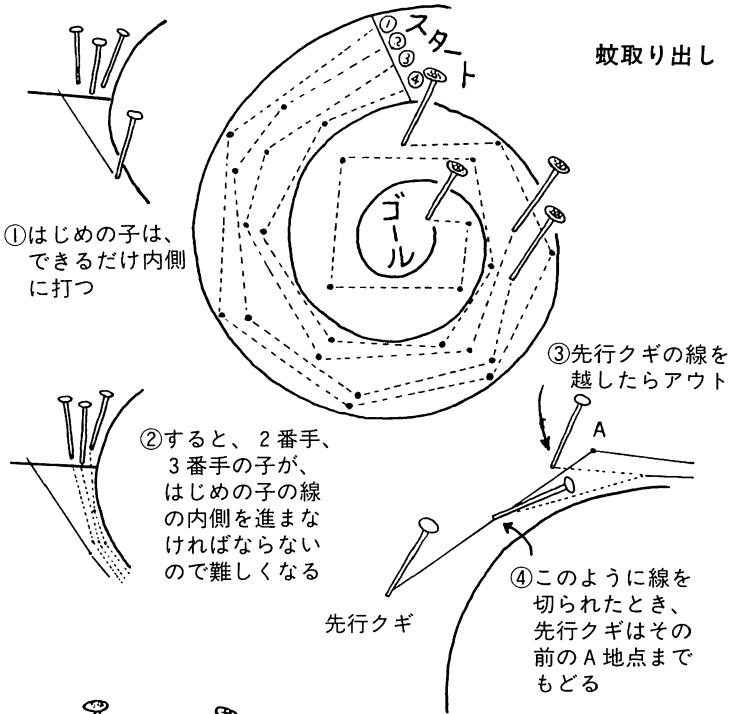


「かこみ」は、二人で遊ぶ場合、まず線を引き、線の両側からクギを打ち込んでいって、左まわりに線をつないでいき、相手のクギを囲んで出られなくすれば勝ちになります。四人の場合は、最初に十字を描き、端の四点からクギを打ち込んでいきます。

「蚊取り出し」は、地面に渦巻を描きます。ジャンケンなどで順番を決め、渦巻の中にクギを打ち込んで線をつなぐ

し」や「かこみ」などさまざまなクギさしゲームを次々に生み出していきました。こうして、男の子たちは単純な遊びではなくなったクギさしに、ますます夢中になっていったのです。

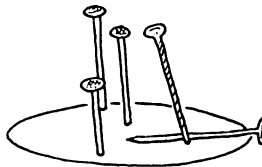
蚊取り出し



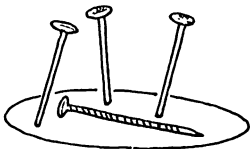
1本出し

- ①クギを打ち込んでおく

- ②勝負クギを打ち込み、当てて倒せば取れる

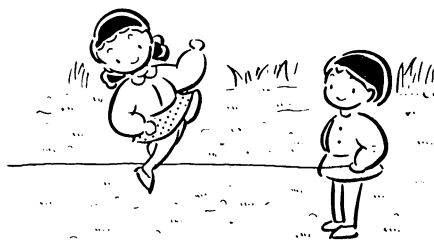


- ③勝負クギが立たなかったら、次の子が当てると取れる



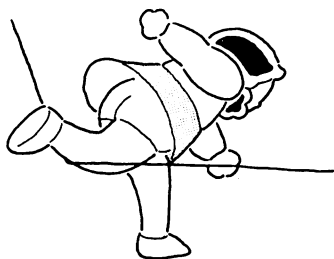
いき、渦巻の中心までたどり着けば勝ち。ただし、前の打ち手の打ったクギより内側に打ち込まなければならぬことが鉄則で、わんぱく坊主たちは、相手の通路をせばめるようにクギを打とうと必死になりました。

ゴムとび



女とび

片足でゴムひも
を押さえておい
てとぶ



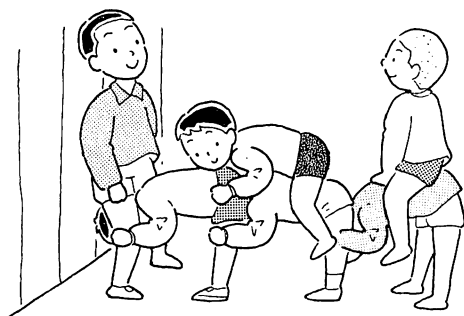
逆立ちとび

ゴムひもが高い
ときは、足を高
く上げて引っか
ける

ゴムとびを優雅で美しく見せたのは、何ととっても、あの「女とび」。スカートの裾を翻し、後ろ向きに片足を高く突き上げ、足首でゴムをひっかけてとぶ、おなじみのとび方です。ゴムの高さは靴の先から膝、手、腰、胸、肩、耳、頭と段々高くなり、低いうちはケンケンとびや男とびで難なくとべますが、胸以上になると女とびでないとうまくいきません。男の子たちもやはり女とびでとんでいましたが、なぜか絵になりませんでした。

昭和三十年代に爆発的人気を呼んだ、このゴムとび。下火にはなったというものの、最近の小学生たちも「女とび」に熱中しています。

馬乗り



①落ちたら馬になる

②つぶされると、
また馬をやる

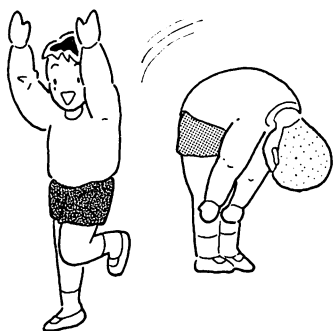
全員が乗り終わったら、一人ずつジャンケンする方法と、最後の者と親馬がジャンケンして負けた方の組が馬になる遊び方がある



馬乗りは、その激しさゆえに、つい最近まで長い間男の子たちをとりこにしていた遊びです。危険だからと、学校から何度禁止されても、人気は衰えおとろえませんでした。

馬乗りは、みなさんご存じの馬とびを面白くしたもので、馬になった子の背中に飛び乗って馬をつぶしたり、馬が乗った子を振り落としたりして遊びます。

まず二人ずつジャンケンをして、勝った子は乗り手に、負けた子は馬になります。塀へいや壁、電柱などを背にして親馬役が立ち、その股間こかんに馬組が次々に頭を入れ、つながって長い馬をつくります。乗り手は遠くから走って行って次々に馬に



カカシ

カカシのように一本足で立つ。よろめいたり、足を変えると失格



燈台とび

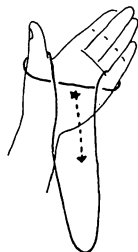
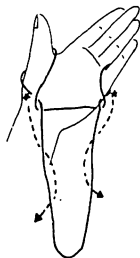
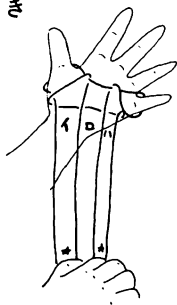
馬とびをして、着地と同時に両手を上げて片足で立つ

飛び乗り、みんなが乗ったら、最後の乗り手と親馬がジャンケンをして、負けた組が馬になります。それまでに馬がつぶれてしまうと、馬組の負け、乗り手が落ちれば乗り手の負けになります。そこで馬はゆすつて振り落とそうとするし、乗り手は馬の上で暴れて馬をつぶしにかかるなど、激しい攻防戦になるのです。

いろんな飛び方を駆使して馬とびの技を競う遊びも人気がありました。馬の背を高くしたり、足幅を広げたり、また、飛ぶ時に馬の尻を叩くとか、何本指で飛ぶとか、飛んだ後、片足で着地するとか、難しいルールを編み出しては技を競ったものです。

あやとり

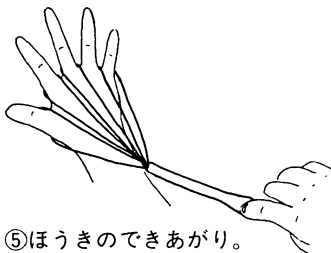
ほうき



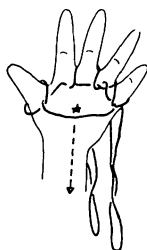
①★の糸を引く。

②親指と人差し指を
かけて引く。

③左手の人差し指・中指・薬指をそれぞれイ・ロ・ハに入れ、右手の糸を左手の後ろ側へもっていく



⑤ほうきのできあがり。

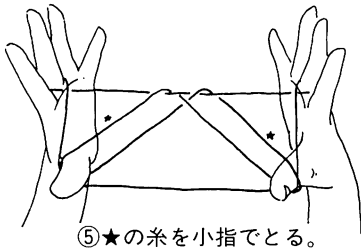


④★の糸を引き下げる。

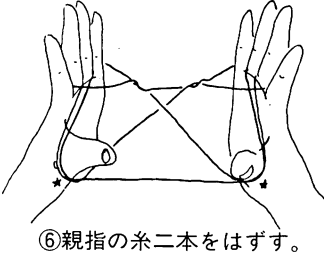
一本の糸が川になり、橋になり、富士山になり、いろんな形に変化する、あやとりは女の子たちを夢中にさせました。

あやとりの歴史は古く、千年の昔、平安時代から。江戸の元禄時代には女性や子どもの遊びとして大流行、さまざまな取り方が工夫されました。

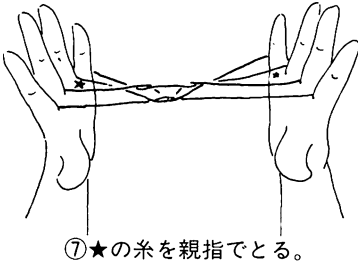
子どもの頃、「ちよつと貸してごらん」と糸を取った母親が、みごとな手さばきで一人あやとりをしてみせてくれるのに見とれたものでした。こうして、あやとりは女の子の遊びとして、祖母から母へ、母から娘へと伝えられてきたのです。



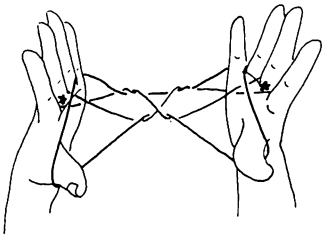
⑤★の糸を小指でとる。



⑥親指の糸二本をはずす。

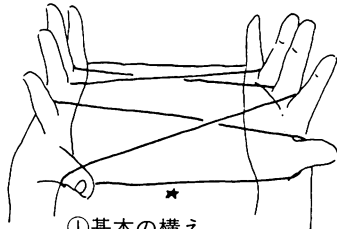


⑦★の糸を親指でとる。

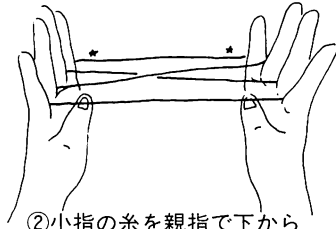


⑧中指の★の糸を親指にかける。

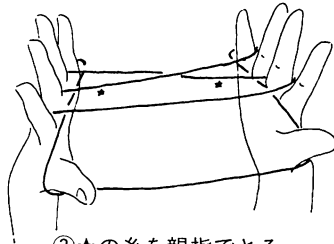
はしご



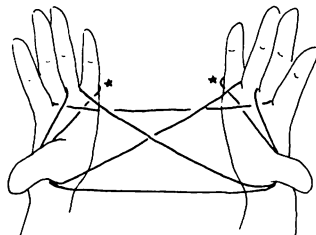
①基本の構え。
親指の糸をはずす。



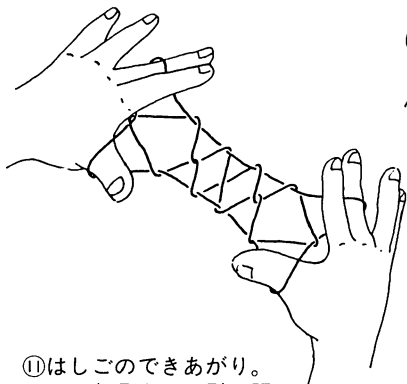
②小指の糸を親指で下から
すくいとる。



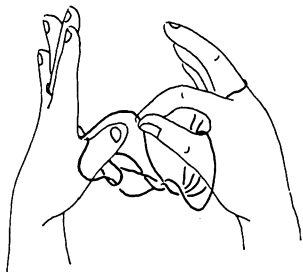
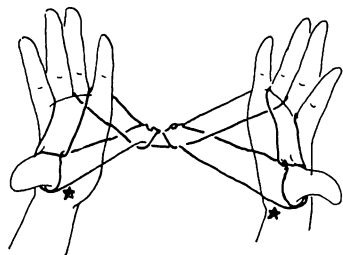
③★の糸を親指でとる。



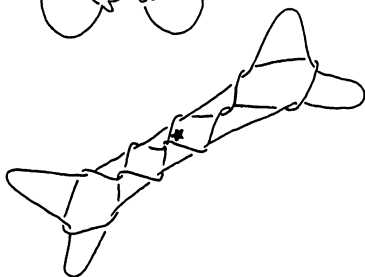
④小指の糸をはずす。



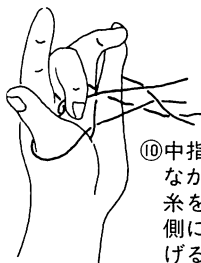
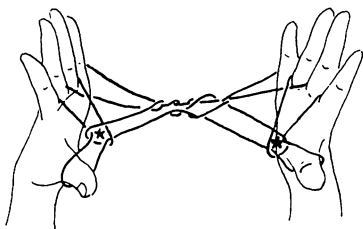
⑪はしごのできあがり。
★の部分を口で引っ張ると東京タワーができる。



⑨親指の★の糸をはずす。
⑧、⑨を連続で行う。

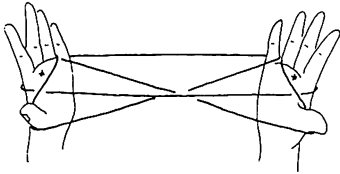


⑫「富士山にかすみ」に
続けられる。

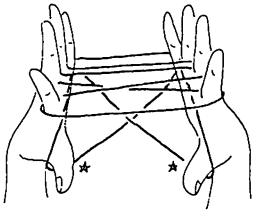
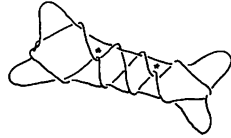


⑩中指を★の中に入れながら小指、中指の糸をはずす。手を外側にかえすように広げるようにする。

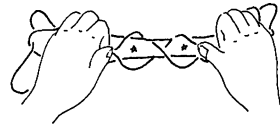
富士山にかすみ



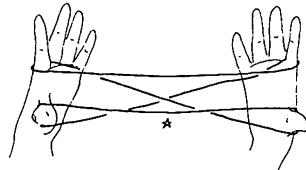
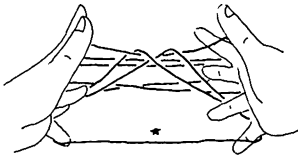
④★の糸を中指でとりあう。



⑤親指の糸をはずす。

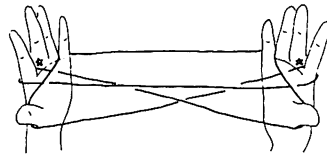
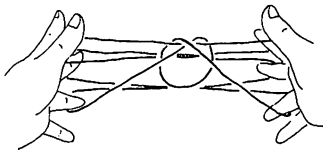


①親指と人差し指でつまむ。
★を中にすくいあげる。



②中指で★の糸をとる。

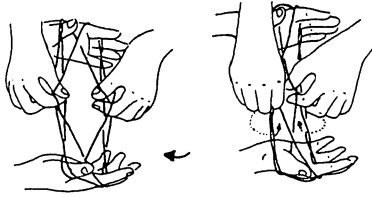
⑥富士山にかすみ。
小指の糸をはずす。



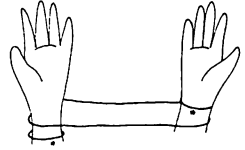
③★の糸を薬指にかける。

⑦両手をゆっくり開くと
月が出てくる。

ふたりあやとり



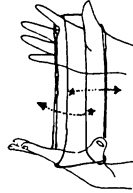
⑤親指、人差し指で摘んで外側の糸を越え、下からすくいとる。



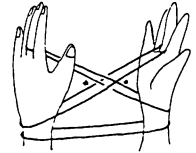
①両手首に糸をひと巻きして、中指で★の糸をとりあう。



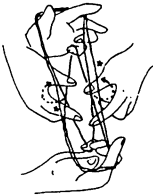
⑨親指と人差し指で下から★をつまむ。



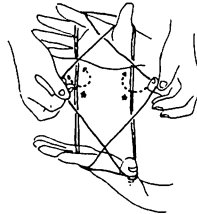
⑥川のできあがり。
★の糸を小指でとって、手前に引く。



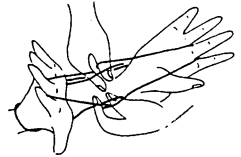
②両手の親指、人差し指で★をつまむ。



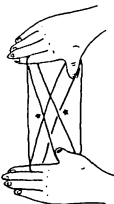
⑩つまんだら外側の★の糸を越えて、上から中央に入れ、親指、人差し指を広げる。



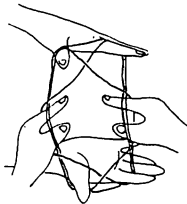
⑦親指、人差し指を★の糸を糸の下からくぐらせる。



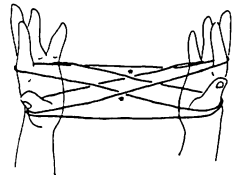
③つまんだまま、手首の糸の外側から内側にくぐらせる。



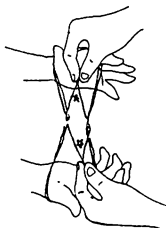
⑪★の部分親指と人差し指でつまむ。



⑧すくいとる。



④★をつまむ。



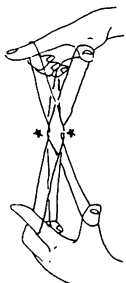
⑱糸を小指にかけたまま、交差した★の糸をつまんで上に広げる。



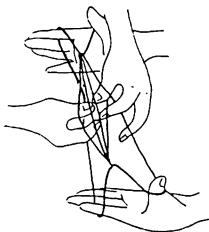
⑮かえるのできあがり。親指と人差し指で★をつまむ。



⑫つまんだら外側の糸を巻いて下から上にとる。



⑲鼓、文福茶がまのできあがり。親指と人差し指で★の糸をつまみ、二本の平行した糸を外側からくぐらせる。

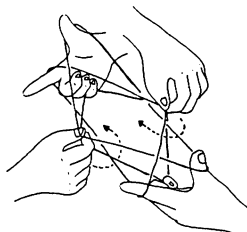


⑯中央の二本の糸の間から上に開く。



親指と人差し指で交差する★の部分をつまむ。

⑬ひし形のできあがり。



⑳上にすくいって指を広げる。川に戻って、再びあやとりを続ける。

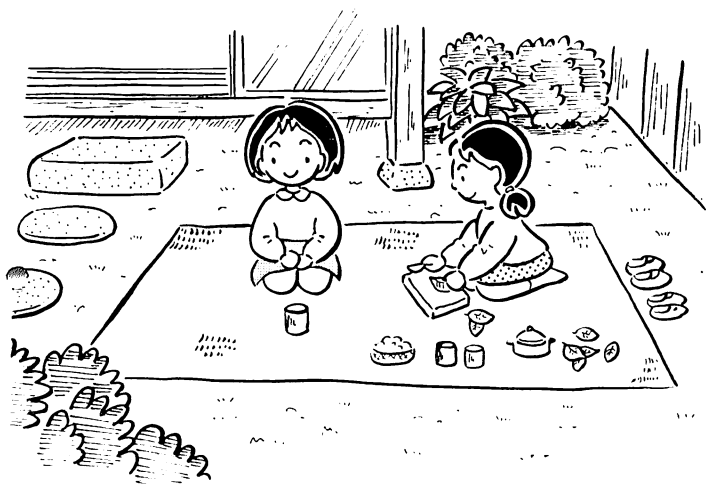


⑰ひし形に戻る。★の糸に小指をかける。



⑭つまんだら下から上に指を広げる。

ままごいじや

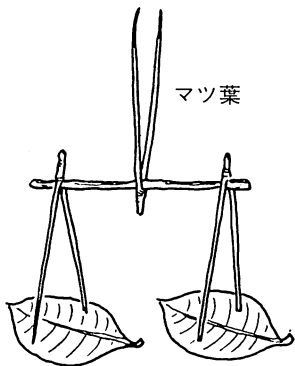


ままごとをした覚えがないという女の子は、ほとんどいないのではないのでしょうか。はるか昔から女の子たちに愛されてきたままごとは、時代が移り、道具は変わっても、今なお女の子遊びの王座を占めています。

最近の女の子たちは、電子レンジまでそろったスチール製やプラスチック製のままごとセットやビニール製のサンドイッチ、ハンバークを使って、家の中でままごと遊びをします。昔の女の子たちは縁側や家の前の路地ろじにゴザを敷き、草花や木の実など、身近にあるものを駆使くしして、ままごと遊びを楽しみました。

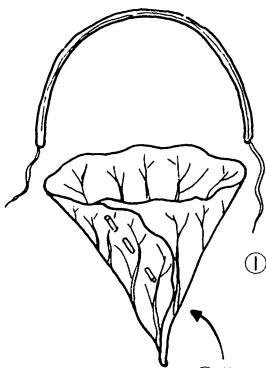
拾ひろった板きれをまな板に、石の包丁や

マツ葉と木の葉の秤



ツバキなどの葉っぱ

巻きずし



花かご

①フキの茎の肉を折りとって、皮を残す

②葉の両側を重ね合わせ小枝で閉じる



③葉に穴をあけてしぼる

レンゲソウや
タンポポの花びら

石のかまどで料理が始まります。またたく間に、色とりどりの花びらを草で巻いた巻きずし、ヨモギの葉を石で叩いて作ったヨモギもち、泥だんごにナンテンの実のごはんなど、夢のようなごちそうが草の葉の皿や石の器に並べられました。集まった子どもはそれぞれに役がつけられます。お母さん、お父さん、おばあちゃん、赤ちゃん役には人形がかり出されます。主役はもちろんお母さんで、小言をいう口ぶりまで当の母親をつくりものには笑われます。また、フキの葉のカゴやマツ葉と木の葉で作った秤はかりを使って、お店屋さんごっこも楽しみました。

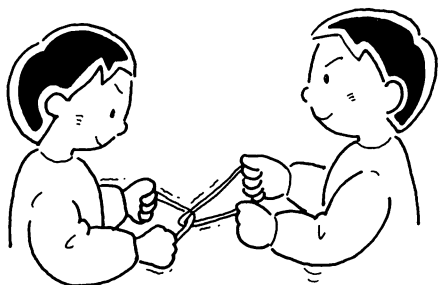
草木ずもろ



昔は道を歩けば、道端みちばたに野の草や花が顔を出し、それを摘つんでいろいろな遊びが楽しめました。なかでも季節に関係なく、場所を選ばず、いつでも手軽にできたのが草木ずもろ。学校の行き帰り、クローバーやオオバコを摘んで草木ずもろをして道草をくったことを思い出します。

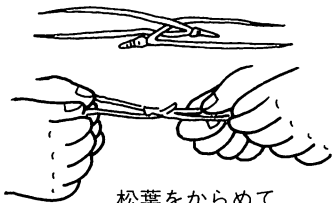
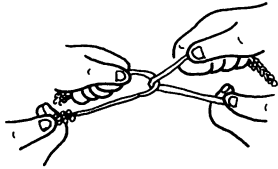
同じ種類の草花の中から強そうなものを選び、二本をからませ、引っぱり合つて、切れると負け。大勢でやつて、勝つと次々に挑戦を受け、何勝できるか競つたりもしました。

子どもたちは、強そうな草を選ぶのに、やつきになりますが、材料のつよさより、



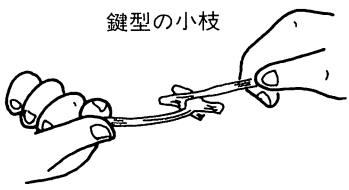
草花をからませて引っぱり
合い、引きちぎれば勝ち

オオバコの花茎



松葉をからめて
引っぱり合う

鍵型の小枝



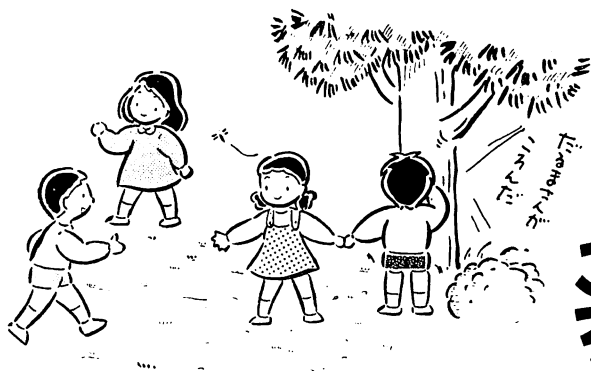
むしろ、からめる位置や引っぱるタイミングで勝負が決まります。相手の草にからめたら短めに持って、瞬間的に力を入れて引くのがコツ。また、力まかせに引っぱるよりは、じっとしていて相手の茎が弱るまで待つ方がいいという説もあります。

どんな草花でもできますが、茎を折ってみて柔らかく筋が多いものが強く、オオバコはその代表選手でした。

そのほか、クローバーの葉をからませ合って引っぱりたり、松葉をからめて引っぱりたり、いろんな草木で草木ずもうを楽しみました。

だるまさんが

ころんだ



鬼ごっこは子ども遊びの傑作。「かくれんぼ」はじめ、「子とろ子とろ」「目かくし鬼」「手つなぎ鬼」「くつかくし」と、昔から子どもたちが生み出してきた鬼ごっこの種類は数知れませんが、あなたが子どもの頃にはどんな鬼ごっこが全盛でした？ 最近の子どもたちに流行の鬼ごっこは「ドロケイ」。ドロボウと警察に分かれてつかまえ鬼ごっこをするという、超現実的な遊びです。

さて、ここで紹介する「だるまさんがころんだ」は、昔も今も子どもたちに変わらぬ人気の鬼ごっこです。最近の小学生たちも公園で、校庭で「だるまさんがころんだ」という懐かしいかけ声とともに

に、この遊びに夢中になっています。

後ろ向きに立った鬼が十数える代わりに「だるまさんがころんだ」と早口で叫んで素早く振り返ります。その間にみんなは鬼に見つからないように近づき、鬼が振り向いたら、そのままの姿勢で止まります。鬼は「だるまさんがころんだ」と早口で言ったり、わざとゆっくり言ったりして、みんなのタイミングを狂わせます。運悪く足を上げたところで鬼が振り向いたら、必死でその姿勢を保たなければなりません。動いているのを鬼に見つけられたら「○○ちゃん、動いた」と言って、鬼に捕らえられ、つながれるのです。

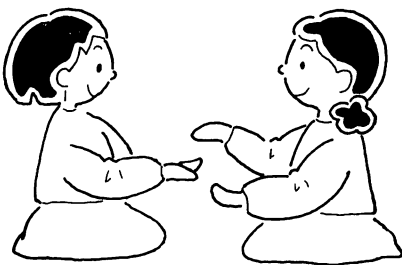
動いているところを見つからず、鬼にうまく近づけたら、捕らえられた子の手を手刀てがなで切って助け、走って逃げます。鬼が「ストップ！」と声をあげると、その場で止まらなくてははいけません。ストップをかけられたら、鬼は、その場から三步だけ飛び、誰かに触ることができれば、鬼を交代することができます。

男の子と女の子が一緒になって楽しめるのが、鬼ごっこの魅力。「だるまさんがころんだ」をやると、鬼になった男の子が意識して気のある女の子ばかり捕らえようとしたこと、思いだします。

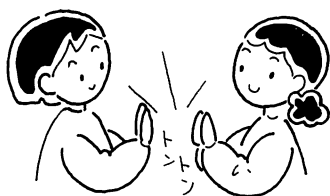
夏も近づく八十八夜

手合わせ遊び

- ① 「夏も近づく～」唄に合わせて自分の手と相手の手を交互に打つ



- ② 「八十八夜～」で、両手をトントンと打つ



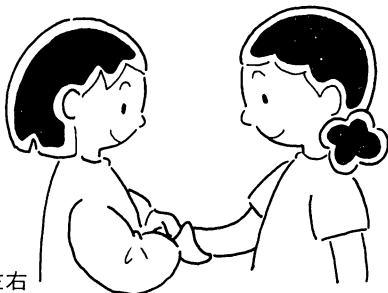
- ③ ①、②の動作を繰り返す

いつでもどこでも少しでも時間があれば、女の子たちはおしやべりか手合わせ遊びを始めました。

「せっせっせ」に始まり、「夏も近づく八十八夜」のように、唄に合わせて手を打ち、打つ速度を早めていって相手の失敗を誘うものや、「お寺のおしょうさん」のように最後にジャンケンをするものなど、いろいろな形の手合わせ遊びが生み出されました。女の子たちは当時の流行唄はやりうたや童謡どうようをそのまま拝借はいしゃくして、手当り次第、手合わせ唄にしてしまいました。「いまはやまなか」で始まる「汽車」はその代表的なものです。

そのほか、「ずいずいずっころばし」や

おなべふ



①相手の手首からひじまで、左右の親指を交互においていく

②「お」から始め、左右の指を一回かえるたびに「お・な・べ・ふ」を繰り返す

③終わったところで言った言葉で、性格を占う

ずいずいずっころばし



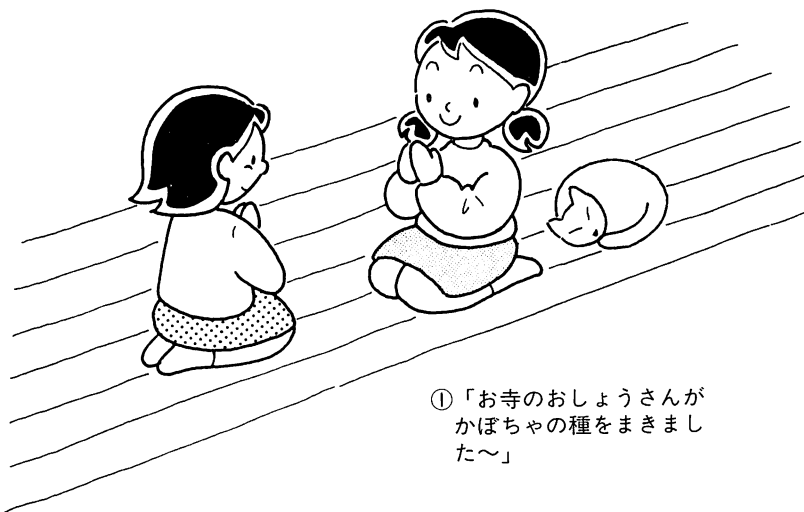
「お」 おりこう
 「な」 泣きむし
 「べ」 勉強家
 「ふ」 不良

①最後の「だあれ〜」で指をつかまれた人が鬼になる

指占いの「おなべふ」「蜂が刺した」などの指遊びも人気がありました。

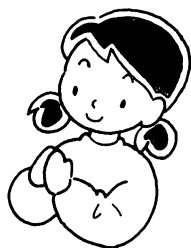
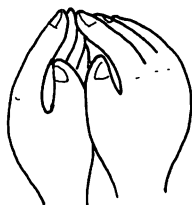
だあれ
 おちやわん
 いどのまわり
 行きつこなあし
 お母さんがよんでも
 お父さんがよんでも
 チュウ チュウ チュウ
 こめくって チュウ
 たわらのネズミが
 むけたら ドンドコ
 トツピンシャン
 ちやつぽに おわ
 ごまみそずい
 ずいずいずっ
 ころばし

お寺のおしょうさん



- ① 「お寺のおしょうさんが
かぼちゃの種をまきました〜」

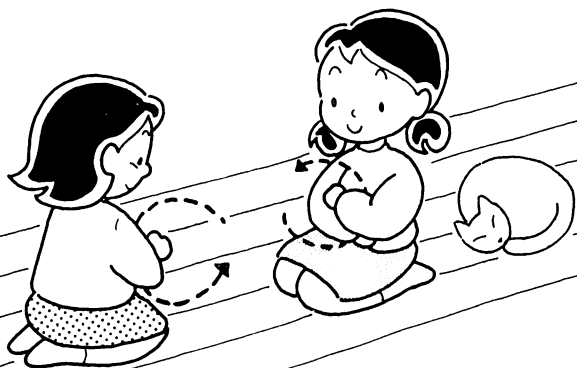
- ② 「芽が出て〜」
両手を合わせる



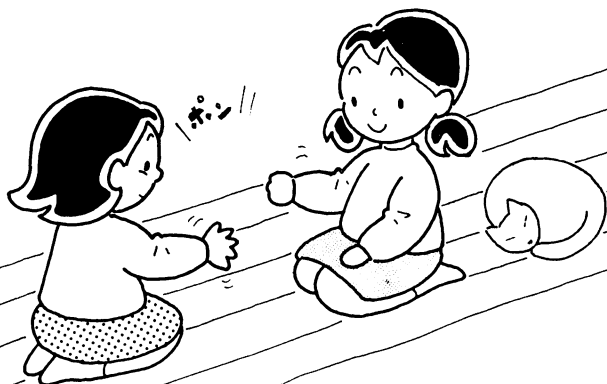
- ③ 「ふくらんで〜」
つぼみのようにふくらませる



- ④ 「花が咲いて〜」
両手を開く



⑤ 「ジャンケン～」
といいながら手を
グルグルまわす



⑥ 「ポン～」でジャンケンをする

絵描きうた



⑤ 6月6日に雨が
ザアザア降って
きて



④ カエルじゃないよ
アヒルだよ



③ 葉っぱじゃないよ
カエルだよ



② おなべじゃないよ
葉っぱだよ



① おなべかな
コックさん



⑨ あっというまに
コックさん



⑧ コツペパン二つ
くださいな



⑦ アンパン二つに
豆三つ



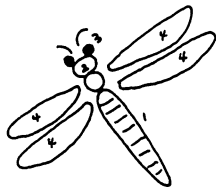
⑥ 三角定規に
ひび入って

「ミミズが三匹はい出して 朝めし
昼めし 晩のめし おーなかいっぱい食
べた時 雨がザアザア降ってきて あら
れもパラパラ降ってきて おっとたまげ
た○○○○」この唄、覚えていますか？
唄いながら地面に棒切れで絵を描いて遊
んだ、あの絵描きうたです。さて、この
唄で描きあげた絵は何だったでしょう
か。正解は「タコ入道」です。
子どもたちは地面には棒切れやクギ
で、コンクリートの上には白墨はくぼくや石ころ
で絵描きうたを描いては楽しみました。
うまい子は最後までどんな絵を描くのかわ
からせないのが自慢で、幾通りもの絵
描きうたを知っていました。



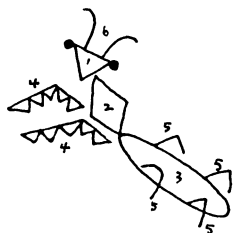
- ① 6ちゃんがつて
② 1円もらつて
③ アメ買って
④ 6月6日に
⑤ 雨ザアザア
⑥ 三角定規に
⑦ ひび入つて
⑧ アンパンニ
⑨ つと豆ニつ
⑩ ビエロさん

ビエロ



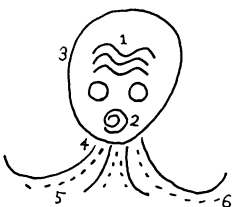
とんぼ

- ① ものさし一本
あつたとさ
② おだんこニつ
重なつて
③ お豆がニつ
ヒゲ二本
④ あつというまに
大きなとんぼさん

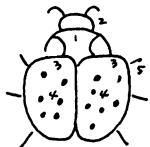


かまきり

- ① 三角定規に豆ニつ
くっしもち一つ
② ひしも一つ
③ 葉っぱ一枚
とんできた
④ ノコギリニつ
⑤ あし四本
⑥ あつというまに
かまきりさん

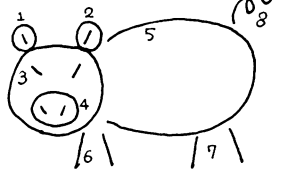


- てんとうむし
① おそなえもちに
ひび入つて
② 正月すぎて
カビはえた
③ 節分だからお豆
バラバラまきました
④ お豆バラバラ
降つてきて
⑤ あつというまに
かわいいてんとうむし



フタ

- ① まるかいて、ちよん
② まるかいて、ちよん



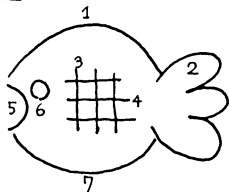
蛸入道

- ① ミミズが三匹
はい出して
② 朝めし昼めし
③ おなかいっぱい
たべた時
④ 雨がザアザア
ザアザアザア
⑤ あられがバラバラ
⑥ ぱらぱら降つてきて
ぱらぱら降つてきて
おつたまげた蛸入道

- ③ まーるちよんちよん
④ まる、ちよんちよん
⑤ 大きなつの字
⑥ ちよんちよん
⑦ ちよんちよん
⑧ ブーブーブー

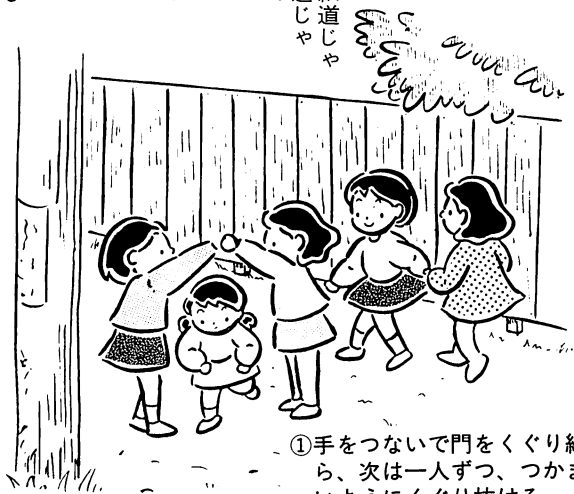
金魚

- ① 高い山があつたとさ
② 下に林があつたとさ
③ 大根ばたけに
④ 麦ばたけ
⑤ お池のそばに
⑥ まあるい石をかいたらば
⑦ あいら金魚になつちやうた



とおりやんせ

とおりやんせ
とおりやんせ
ここはどここの細道じゃ
天神さまの細道じゃ
ちよつと通して
くだしやんせ
ご用のない者
通しやせぬ
この子の七つの
お祝いに
お札を納めに
まいります
行きはよいよい
帰りはこわい
こわいながらも
とおりやんせ
とおりやんせ



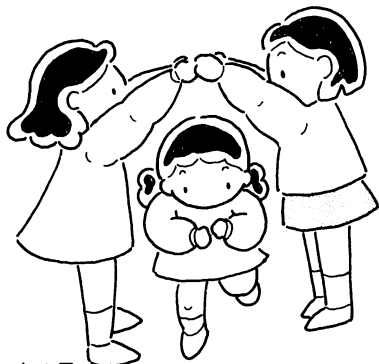
①手をつないで門をくぐり終えたら、次は一人ずつ、つかまらないうようにくぐり抜ける

「とおりやんせ」や「かごめ かごめ」などの鬼あそび唄は、いま聞いても、子どもの頃、不可思議^{ふかしぎ}だった、あの世界がふつとよみがえります。

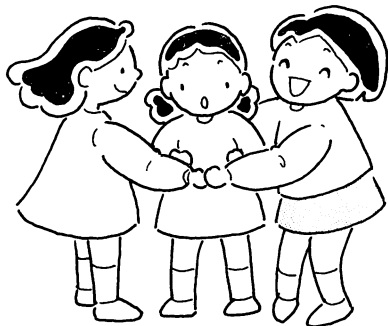
小さな女の子たちは集まると、神社の境内^{けいだい}で、原っぱで、学校の校庭で「とおりやんせ」や「かごめ かごめ」「花いちもんめ」をして遊びました。どれも単純な遊びですが、鬼あそび唄をうたっているうちに自分たちだけが別の世界に入っていくような、怖い^{おそ}けれどワクワクするような楽しさがあった、幼い心をとりにしました。

ジャンケンをして、門鬼になる子を二人選びます。門鬼は向かい合って頭の上で両手をつなぎます。他の子は一列に並び「とおりゃんせとおりゃんせ こはどこの細道じゃ」と唄うと、門鬼が「天神さまの細道じゃ」と答えます。こうして、かけ合いの歌問答をし、唄い終わると、手をつなぎ、一列になって鬼の門をくぐり抜けます。帰りには手を離し一人ずつ、門鬼に捕らえられないようにくぐり抜けて戻らなければいけません。

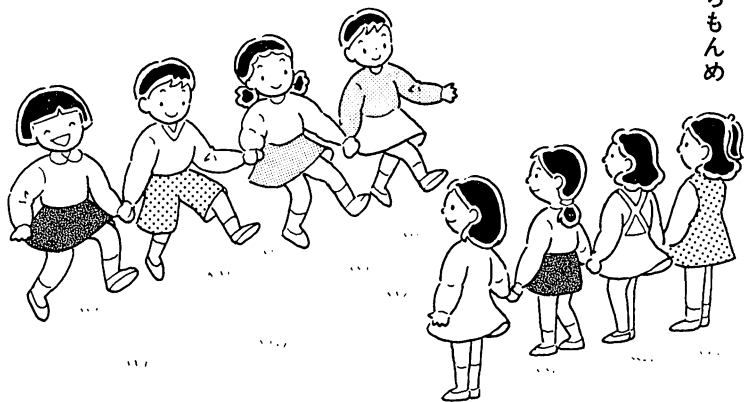
門をくぐって戻りますが、行きはやさしかった門鬼が帰りは恐ろしい鬼に変貌して腕の中に捕らえようとします。鬼のわずかな隙をついて素早くくぐり抜けなければなりません。捕らえられると「地獄極楽えん魔さまにおこられた」といって、鬼の両腕の中であっちこちに揺さぶられます。



②門鬼はくぐり抜けようとする子を腕の中に捕らえようとする

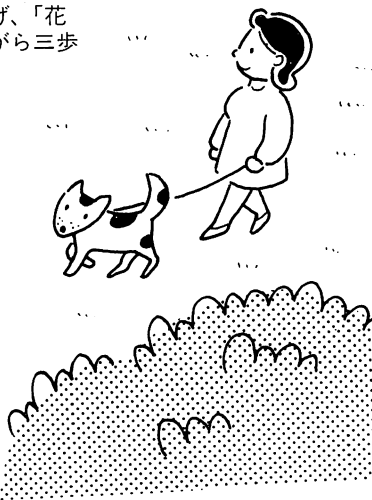


③つかまると腕の中で揺さぶられる



- ① A 「勝ってうれしい」と唄いながら三步進んで足を上げ、「花いちもんめ」と唄いながら三步後ろに戻る

二組に分かれて手をつなぎ、ジャンケンをして勝った方が「勝ってうれしい花いちもんめ」と唄いながら前に進みます。次に、もう一方の組が「負けてくやしい花いちもんめ」と前進、このようにかかけ合いの唄問答をしながら交互に前に進み出て、唄の最後で互いに相手の組から欲しい子を決め、「○ ○ちゃんがほしい」と名前をあげます。名前をあげられた二人がジャンケンして、負けた方が相手の組に入ります。こうして続けていき、仲間が減った組の最後の一人がジャンケンに負けたらおしまい。





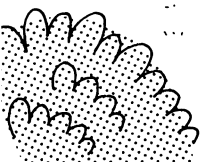
② B 「負けてくやしい花いちもんめ」と唄いながら、Aと同じようにする

③ A 「○ちゃんがほしい」
B 「△ちゃんがほしい」



④ ○ちゃんと△ちゃんが出て、ジャンケンをする

勝ってうれしい花いちもんめ
負けてくやしい花いちもんめ
となりのおばさん
ちよいときておくれ
鬼がこわくていかれない
おかまかぶって
ちよいときておくれ
おかま底抜けいかれぬ
ふとんかぶって
ちよいときておくれ
ふとんびりびりいかれぬ
それはよかよか
どの子がほしい
あの子がほしい
あの子じゃわからぬ
この子がほしい
この子じゃわからぬ
まるくなつて相談しよう



かごめ かごめ

かあごめ かごめ
かあごの中の鳥は
いついつ出やる
夜明けの晩に
ツルとカメがすべった
後ろの正面だあれ



ジャンケンをして鬼を決め、鬼は目をふさいで中央にしゃがみます。他の子は手をつないで唄いながら、鬼のまわりを回ります。「ツルとカメがすべった」で、いっせいにしゃがみ、唄い終わると、鬼は真後ろにいる子の名前を当てなければなりません。当たれば鬼を交代します。

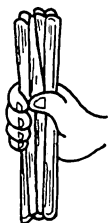
遠いあの日の唄が
すこしこえろ

むかし遊び

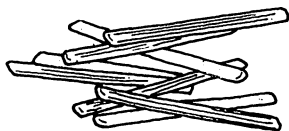
珍品・奇品

竹返し

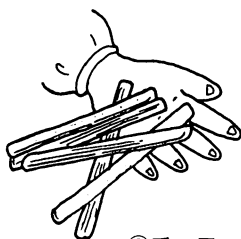
おこし



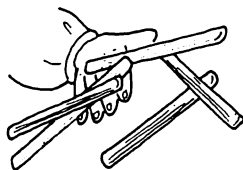
①全部をまとめて握る



②空中に放り上げる



③手の甲で受け、竹べらの表なら表、裏なら裏だけを落としていく

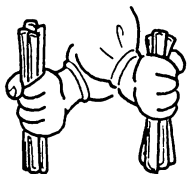


「竹返し」も最近は見られなくなりましたが、男の子にも女の子にも愛されてきた遊びです。おもちゃの少なかった時代、子どもたちは身近にある竹を使っていろんな遊びを考え出しました。

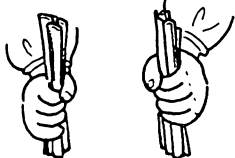
まず、図のようにして長さ20 cm、幅1〜2 cmの皮つきの竹べらを5本から10本つくりまます。この竹べらを使って「おこし」はじめ、「たて」「まえ」「わけ」「きり」など、さまざまな遊びが楽しめます。「おこし」は竹べらをまとめて握り、空中に放り上げて手の甲で受け、一本ずつ落としていく遊びです。ただし表なら表、裏なら裏に分けて一本ずつふるい落としていかなければなりません。また、

わけ

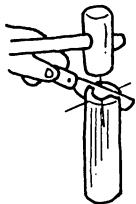
①手を交互させて竹べらを
持ち、1、2の3で離す



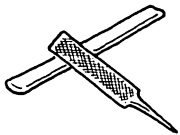
②倒れる前に両手で
つかみ直す



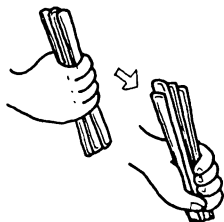
竹べらの作り方



①竹を6等分する



②やすりをかけ、
角を落とし薄く
する

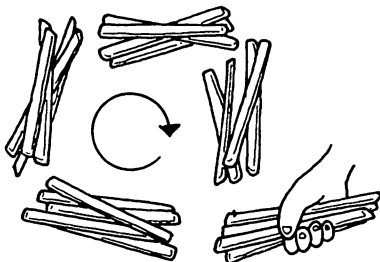


たて

手を離し、竹べらが倒れる寸
前に手を逆さにしてつかむ

まえ

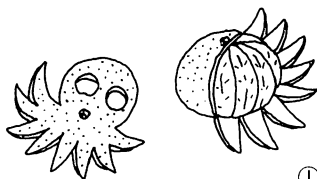
空中で回転させてつかむ



最初に表か裏かを決めておき、竹べらは
すべて表か裏にふるい落とすというやり
方もありました。

「たて」「まえ」「わけ」は図でござん
のように、反射神経がものをいいます。
単純な遊びですが、雨の日や雪の日にも
子どもたちを楽しませてくれました。

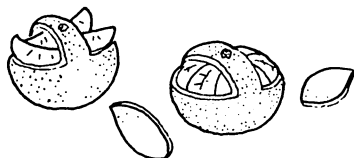
みかん遊び



みかんのタコ

- ①ヘタを下にして皮をむき8本の足を作る

- ②房を取り出して目をくり抜く



手かご

図のように皮をむき、中の房をていねいに取り出す

みかん釣り

針を投げてみかんに刺す



刺さったら静かに釣り上げる

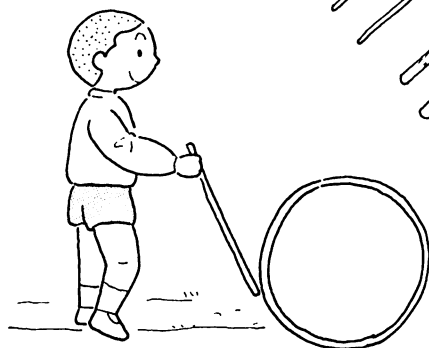
冬の夜、こたつにもぐり込んだ子どもたちは「みかん遊び」を始めます。

みかんのヘタを下にして、図のように皮をむき、皮でタコをつくったり、手かごをつくったり、また、ヘタについた星の数を数えて、みかんの房ふきの数当てなどもしました。

なかでも楽しかったのは「みかん釣り」。皮をむき、ひと房ずつほぐして紙の上におき、糸を通した縫い針ぬいを上から投げてみかんに刺して釣りあげるのです。刺さったら、そっと静かに釣り上げないと途中で落ちてしまいます。釣り上げたみかんは食べられるとあって、子どもたちは夢中になりました。

たが回し

押し棒



針金の輪

針金を曲げる

二股の枝

竹の先を割り、針金か棒をはさむ

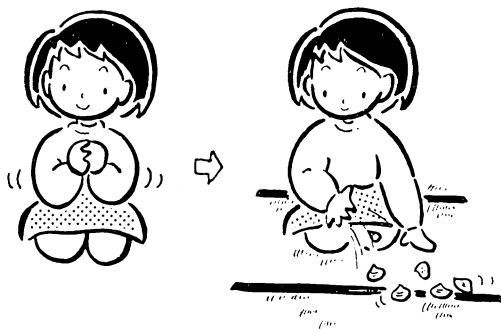
輪の下から3分の1位のところに押し棒を当てるのがコツ

今ではすっかり見られなくなりましたが、「たが回し」も男の子たちに愛されてきた遊びの一つです。

もともと、古くなった樽たるや桶おけのたがを竹の棒などで押して回していたのが自転車のリムにとってかわったのは昭和三十年代。男の子たちは自転車で古自転車のリムをもらってきては、竹の棒や針金を曲げた棒で回して遊びました。

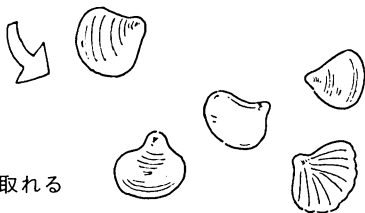
自転車のリムは適当な重さがあり、輪にへこみがあって、はずれにくいいため、たが回しのスピードはそれまでよりグンと上がりました。音をたてて右へ左へ自由自在に方向転換させながら、男の子たちは町中を駆けまわりました。

貝遊び



①よく混ぜてから床にまく

②伏せた貝だけ取れる



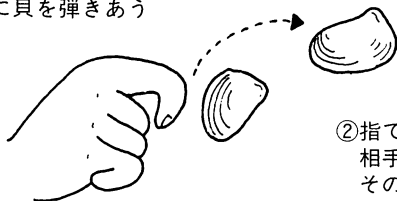
昔の子どもたちは身近な材料をうまく使ってはいろんな遊びをつくり出しました。この貝遊びは、夕飯のしじみ汁などで残った貝がらを集めた女の子たちが考え出した遊びです。貝がらはきれいに洗って日に干してから使いました。

「貝ぶるい」は出し合った貝を集め、両手で包むようにして振るってから床にまいて、伏せた貝だけ取れるという遊び。順番に貝を振るって床にまいては伏せたものを取っていきます。

「貝コ押し」は手持ちの貝をそれぞれ自分の前に置き、順番に指で弾きあい、相手の貝の上に乗ったら取れるというものです。

貝コ押し

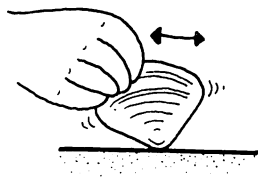
- ①貝がらを出し合い、
順番に貝を弾きあう



- ②指で貝を弾きあい、
相手の貝に乗ったら
その貝を取れる

ハマグリの笛

コンクリートの上で
貝の尻を強くこすり、
穴を開ける



強く吹くと大きな音が出る



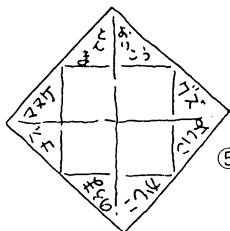
そのほか、それぞれが何個かの貝を手
に握って差しだし、その合計の数を当て
る「ナンコ」や「貝すくい」など、さま
ざまな貝遊びが生まれました。

また、正月などにハマグリが顔を出し
た時は、ハマグリ笛をつくったものです。
貝の尻をコンクリートにこすりつけて穴
を開け、そこに口をつけて吹きます。穴
の大きさによって音色ねいろが変わり、強く吹
くとよく響きました。

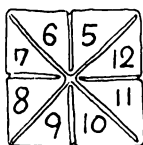
折り紙占い



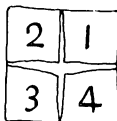
⑥ ③の状態に戻し、1と4に右手の親指と人差し指、2と3に左手の親指と人差し指を入れ、開いたり閉じたりする



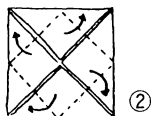
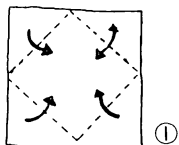
⑤ 5～12の数字の裏面に占い文句を書く



④裏返して5～12の数字を書く



③ 1～4の数字を書く



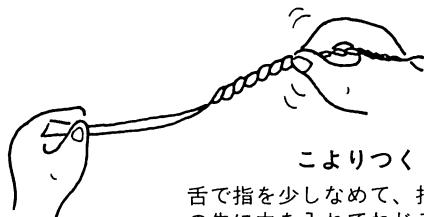
戦後生まれのあなたなら「折り紙占い」といえば覚えていらっしやるはず。休み時間になると教室の片隅に集まっては夢中になった、折り紙に数字をかけただけの、あの占いごっこですよ。

図のように折り方も簡単に単純な作りですが、両手の親指と人差し指を入れて、閉じたり開いたりするたびにでてくる数字が変わるのが面白くて、学校中で流行りました。好きな番号をいうと、占い師はおもむろに数字を裏返して「6番はネ、えいと、おりこうだって」という風に一人ずつ占っていきます。占いの結果が悪いと気になって、当たりが出るまで何度も挑戦したことを覚えています。

こより遊び



下くちびるにはさんだこよりを使って、
次から次へとこよりの輪を受け渡していく



こよりづくり

舌で指を少しなめて、指の先に力を入れてねじる

どこでも簡単に作れる「こより」は、昔からいたずらごっこやゲーム遊びに使われてきました。まず、ちり紙でこよりを作ります。1 cm くらいの幅に切って、親指と人差し指をなめ、指先に力を入れてくるくるとよじればできあがり。こよりを使った、ゆかいなゲーム遊びをご紹介します。

こよりで輪を一つ作り、人数分のこよりを用意します。それぞれ下くちびるにこよりをはさみ、先を曲げます。こよりの先に輪を引っかけて次から次へ回していきます。みんな下くちびるに力が入って面白い顔、でも笑えば落としてしまうので笑うわけにはいきません。

らっくじょ



お手玉の「おさらい」の石ころ版とも
いえる「いっこじょ」も、今では珍しい
遊びになりました。

「おさらい」では親玉を放り上げてい
る間に床にまいた子玉を取りますが、「い
っこじょ」も親石を放り上げている間に
石の山から一つ、二つと石を取っていき

ます。お手玉と違って、その舞台となる
のは路地裏ろじうらや家の軒先のきさき。まず、道端みちばたにあ
る石を拾って小石の山を積むところから
始まります。それぞれ、できるだけ目だ
つ石を選んで親玉に決め、ジャンケンで
勝った子から始めます。

「いっこじょ」と唄いながら親石を放
り上げ、山から石を一つ取って、親石を
受け取ります。次に「にっこじょ」と唄
いながら今度は二つの石を取ります。こ
のようにして三つ、四つ、五つと石を取
っていきませんが、親石を受け損そとねたら、
次の人と交代します。取った石はそれぞ
れ自分のものになり、その合計の数で勝
負を競います。

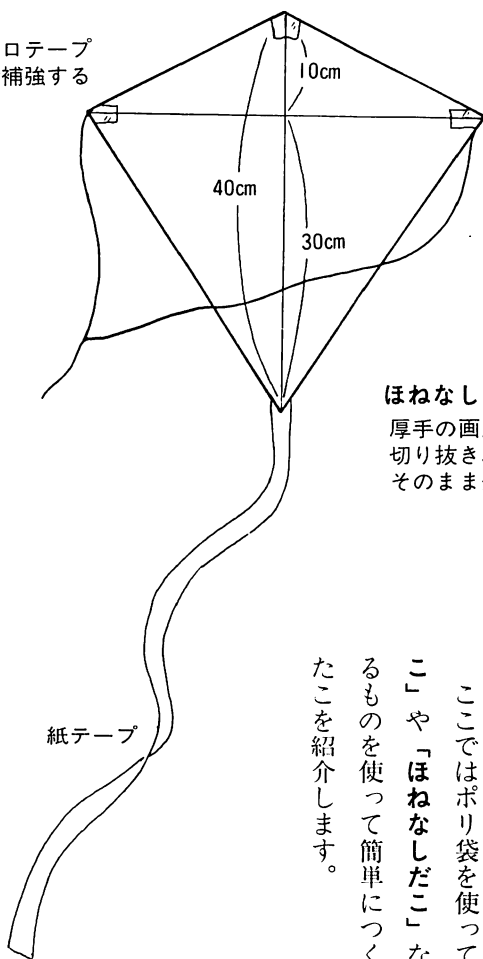
遠いあの日の唄が
きこえ

むかし遊び

作って遊ぶ

たこ

セロテープ
で補強する



ほねなしだこ

厚手の画用紙を図のように
切り抜き、ひごをつけずに
そのまま糸をつけて飛ばす

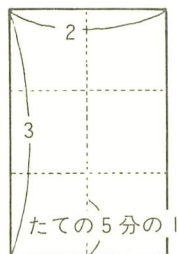
北風が吹く頃になると、土手や空き地
はたこを上げる子供たちであふれまし
た。昔の子どもたちは自分でつくった自
慢のたこを上げて遊びました。

ここではポリ袋を使ってつくる「かく角だ
こ」や「ほねなしだこ」など、身近にあ
るものを使って簡単につくれる現代風の
たこを紹介します。

【材料】 厚手の画用紙、糸、
セロテープ、紙テープ

角だこ

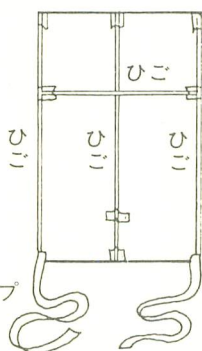
【材料】 ひご4本(直径3mm)、
セロテープ、紙テープ、
糸、ポリ袋



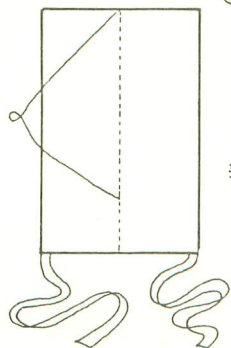
ポリ袋をカッターナイフで図の比率になるように切りとり、しわのよらないようひごをセロテープではりつける。

裏

セロテープをはって補強する

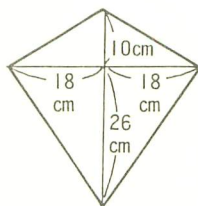


紙テープ

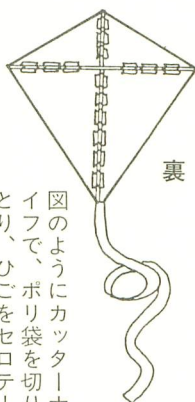


表

エイだこ



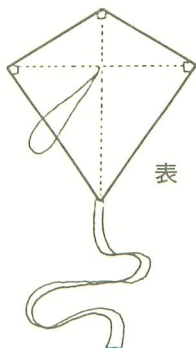
この比率で、
大きいものも作れる



裏

図のようにカッターナイフで、ポリ袋を切りとり、ひごをセロテープでしわのよらないよう止める。

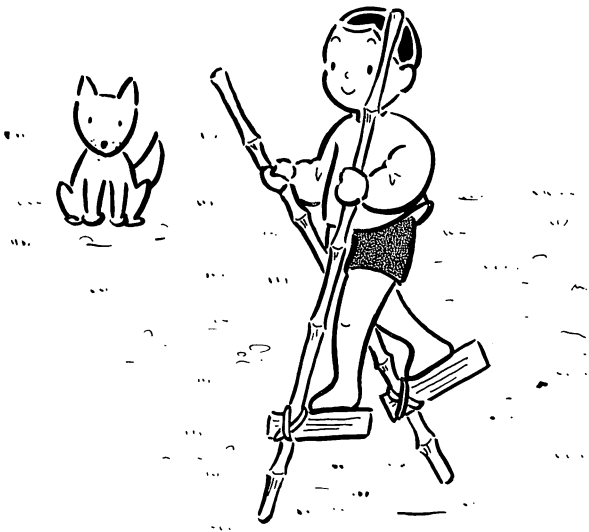
紙テープ(約150cm)を
セロテープではる



表

【材料】 ひご2本
(直径2mm、長さ36cm)、
ポリ袋、セロテープ、
紙テープ、糸

竹馬

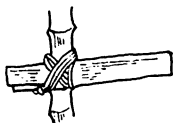


今の小学生が一輪車乗りに一生懸命になるように、昔の小学生、特に男の子たちは必死になって竹馬乗りの練習をしました。

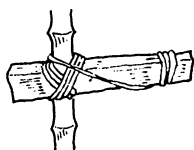
竹馬に乗れるようになると、今度は足掛けをだんだん高くしては自慢しました。また、竹馬に乗ったまま駆け足をしたり、左右の竹をこすり合わせて音を出す「かつお節けずり」など、高度な技を競い合いました。

小さな時は父親につくってもらいましたが、少し大きくなると自分たちでつくりました。足掛けの角度を上向きにするなど、つくり方にも工夫を凝らしたものです。

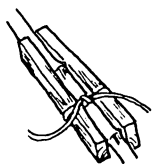
竹馬の作り方



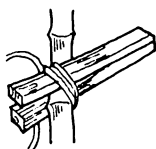
- ③斜めに繩を
かけて結ぶ



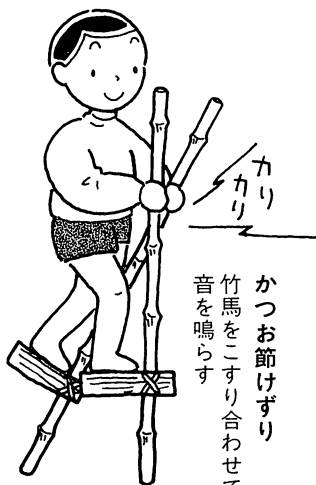
- ④横木の先も
繩を巻き、
斜めに竹に
かける



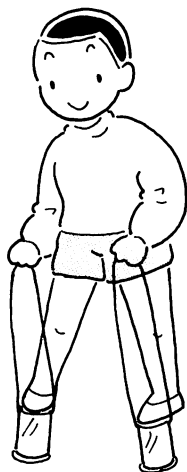
- ①真竹の節の
上で横木を
繩でしばる



- ②繩はきつく
しっかりと
巻く



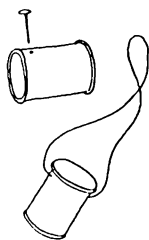
かつお節けずり
竹馬をこすり合わせて
音を鳴らす



- ③手と足を一
緒に動かして歩く

空きカンぽっくり

- ①の近くに
カンの穴を
空きの底で
クギをあける。

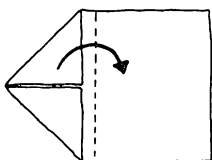


- ②穴にヒモを
通す

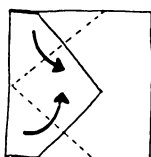
また、竹が身近に手に入らなくなった時代の子どもたちは、**空きカンぽっくり**で遊びました。竹馬のように練習しなくてもすぐ乗れるし、歩くときぽっくりぽっくり音がするのが楽しかったですね。

紙ひこうき

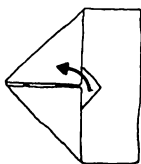
三角飛行機



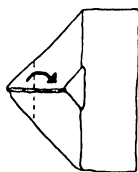
①折る



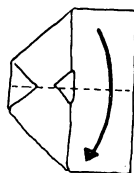
②



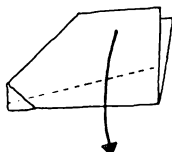
③折り返す



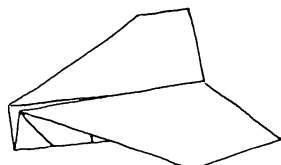
④先を折る



⑤二つ折りにする



⑥つばさを折る

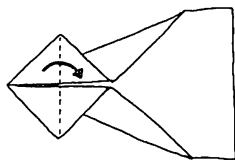


⑦できあがり

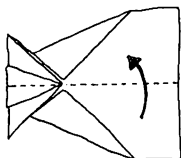
あなたは「いか飛行機」派でしたか？
それとも「つばめ飛行機」（別名つばくろ
戦闘機）派でしたか？ 風を切って早く
まっすぐに、しかも長く飛ぶのは、いか
飛行機や三角飛行機。でも、空中で回転
したり、旋回する、つばめ飛行機も面白
かったですね。

母親から厚めの折り込みのちらしや包
装紙などをもらってつくった紙ひこう
き。わんぱく坊主たちは既成の折り方
は飽き足らず、先に重みをつけたり、折
り方を工夫して自分だけの自慢の紙ひ
こうきをつくり出しました。

いか飛行機



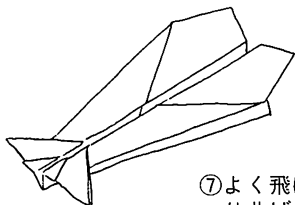
④先を裏側に折り曲げる



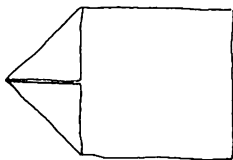
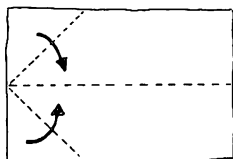
⑤中心から半分に分る



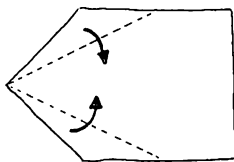
⑥つばさを水平にして、
できあがり



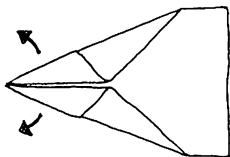
⑦よく飛ばない時は、先を折
り曲げバランスを調節する



①紙を二つ折りにして広げ、
図のように折る

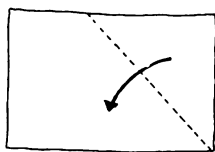
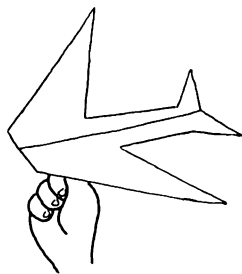


②裏返しにして、中心にむけ
て折る

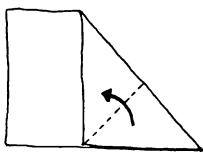


③後ろを出して広げる

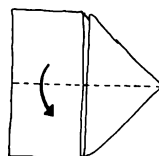
つばめ飛行機



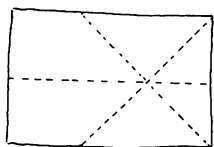
①折る



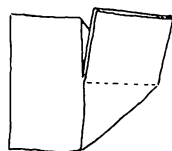
②折る



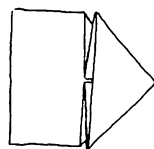
③折る



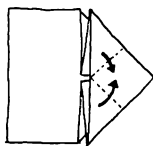
④広げる



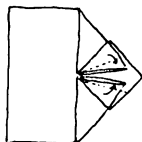
⑤図のように折る



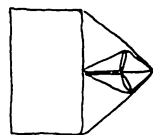
⑥三角に折りたたむ



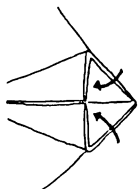
⑦折り合わせる



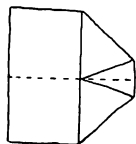
⑧折り合わせる



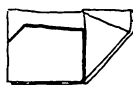
⑨太い線を切る



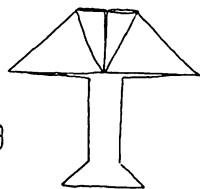
⑩裏に押し込む



⑪裏側へ折る



⑫太い線を切る



⑬広げる

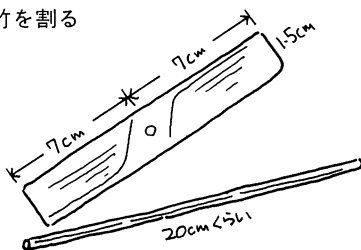
竹とんぼ



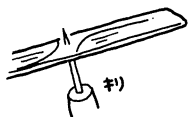
竹とんぼの作り方



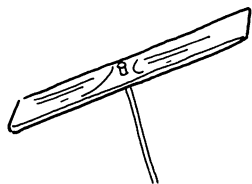
①真竹を割る



②表、裏とも削り、プロペラ状の羽を作る



③中心に穴をあける

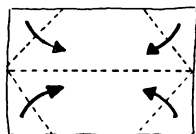


④芯棒をしっかりと差し込む

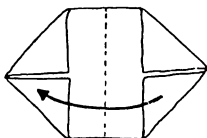
今では民芸品として売られている「竹とんぼ」も、昔は子どもたちがごく当り前のこととして自分たちでつくっては遊んでいたおもちゃです。

両手をすり合わせるようにして柄を回し、最後にぐいと一回し、空中に押し上げるようにして手を離すとよく飛びます。

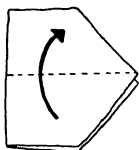
紙鉄砲



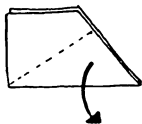
- ①長方形の紙を二つ折りにして広げ、角を三角に折る



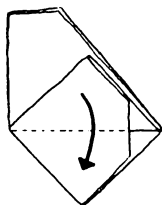
- ②折り合わせる



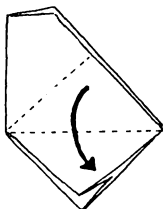
- ③二つ折りにする



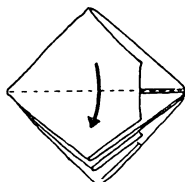
- ④上の紙をおこしてまん中を広げ折りたたむ



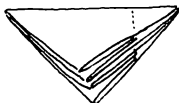
⑤



- ⑥裏返して、裏側の紙も同じように広げる



- ⑦折り合わせればできあがり



- ⑧端を手で持って上から下へ思いっきり振りおろすと、大きな音がする

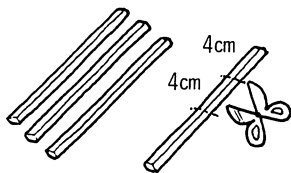


男の子はどの子も鉄砲が大好きです。今のようにおもちゃの鉄砲がなかった時代、男の子たちはわりばし、竹、針金など身近な廃材はいざいを使い、自分たちで工夫して豆鉄砲、針金鉄砲、杉鉄砲などさまざまな鉄砲をつくり出して遊びました。ここでは、中でも簡単につくれる「わりばし鉄砲」と、耳のそばで鳴らしては驚かせて遊んだ「紙鉄砲」の作り方を紹介します。

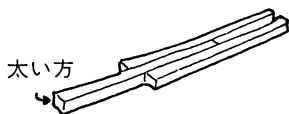
てっぽう

わりばし鉄砲

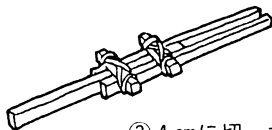
【材料】わりばし3膳、はさみ、
輪ゴム10本、カラーペン



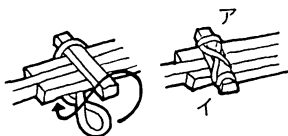
①わりばし2膳を
割り、1本を図
のように切る



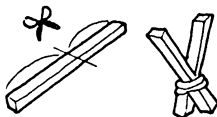
②3本を図のように
合わせる



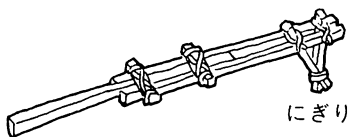
③4cmに切ったはしを、
図のように輪ゴムで
とめる



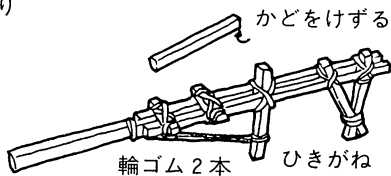
※輪ゴムをアに引っかけて、
伸ばしながらすきにがけに
ア→イ→ア→とかけて、最
後にイで止める



④残りのわりばし1膳
を割って、1本を図
のようにし、鉄砲の
にぎりを作る

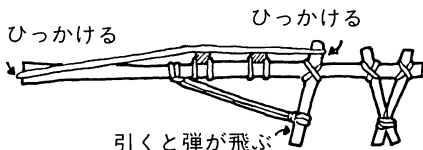


⑤にぎりを図のようにはめ
込んで輪ゴムで止める



弾になる輪ゴム

⑥ひきがねは、残った1本を
にぎりと同じ長さで切って、
銃身に輪ゴムでつける



こま



ひょうひょう栗

こま遊びも長い間、男の子たちに愛されてきた遊びです。手のつけにはじまり、ひものほり、綱つなわたりなど、曲芸ごまで技を競ったり、けんかごまで熱くなったりました。

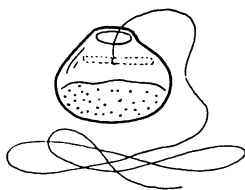
ここでは「ひょうひょう栗ぐり」や「ブンブンごま」など、ちょっと変わった、つくって遊べるこま遊びを紹介します。

ひょうひょう栗は、ゆでた栗の中から、なるべく大きなひと粒栗つぶぐりをさがして作ります。振り回すとヒューヒューとよく鳴りますよ。ブンブンごまは、昔は竹べらをつくり、糸に通して回したものです。

ひょうひょう栗

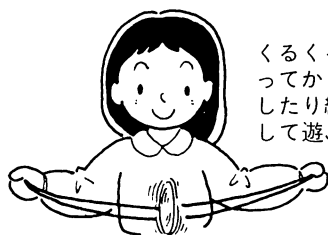


- ①てっぺんに穴をあけ、
中身をつまようじで
ほじくり出す

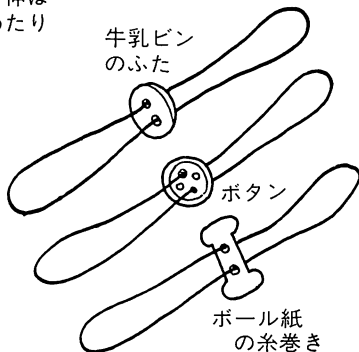


- ②1mぐらいの糸の先
につまようじかマッ
チの軸を1cmぐらい
結びつけて入れる
③糸をもって振り回す

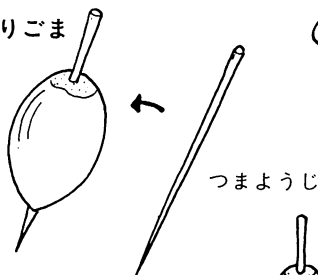
ブンブンごま



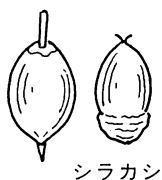
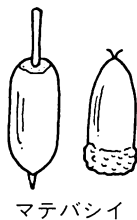
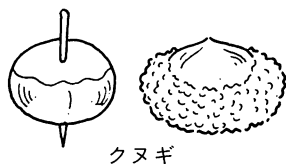
くるくるとねじ
ってから、伸ば
したり縮めたり
して遊ぶ



どんぐりごま



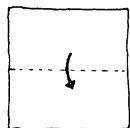
キリカクギで穴をあけ、
つまようじを刺して軸にする



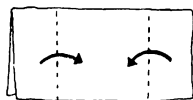
※どんぐりの形によって
回り方が違う

折り紙

キツネ



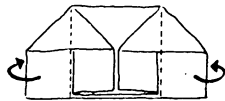
①二つに折る



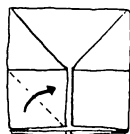
②折り合わせる



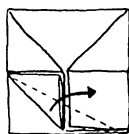
③開いてつぶす



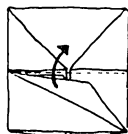
④裏側へ折り合わせる



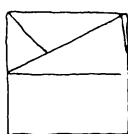
⑤斜め上に折る



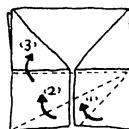
⑥もう一度斜め上に折る



⑦折り上げる



⑧裏返す



⑨裏も①、②、③と折り上げる



⑩

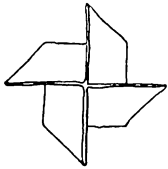


⑪ふくろに指を入れ、まん中をへこませる

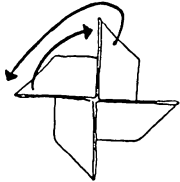


まだ紙が貴重品で、折り紙や千代紙ちよがみはたまにしか買えなかったあの頃、女の子たちは母親が四角く切り揃そろえてくれた、柄がらのきれいな包装紙で折り紙遊びを楽しみました。折り方は母親や姉さんが教えてくれました。平安、室町にはじまり、江戸時代までに鶴、亀など七十種近い折り方が考え出されたという折り紙遊び。その長い歴史を経て、今もなお女の子たちの人気遊びとして息づいています。おなじみの鶴はさておき、ここでは小さい子を喜ばせるにはもってこいの「だまし舟」や「風船」「キツネ」など、つくったものを使って遊ぶことができる折り紙を紹介します。

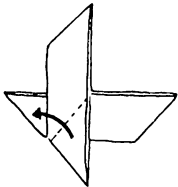
だまし舟



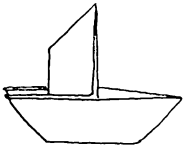
⑪風車のできあがり



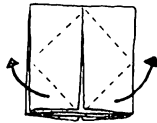
⑫図のように斜めに折る



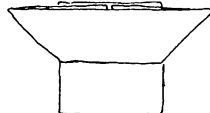
⑬斜めに折り上げる



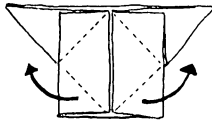
⑭だまし舟のできあがり



⑤左右を矢印の方向に引き出してつぶす

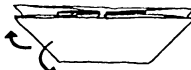


⑥裏返す

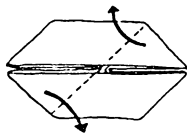


⑦同じように引き出してつぶす

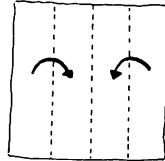
⑧ふくろを開くと二そう舟になる



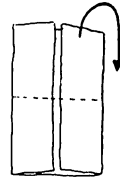
⑨左右に開く



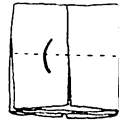
⑩斜めに折る



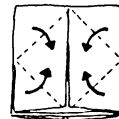
①左右を折り合わす



②裏側に折る



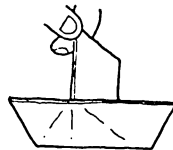
③折り目をつける



④折り目をつける



A

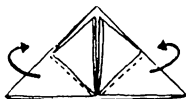


相手が帆を持って目をつぶっている間に、素早くAを折る

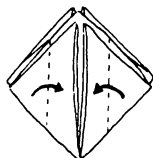
目をあけると、いつの間にか舟先を持っている



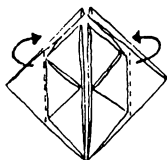
⑥折り合わせる



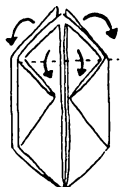
⑦裏側へ折り合わせる



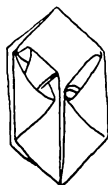
⑧折り合わせる



⑨裏側へ折り合わせる



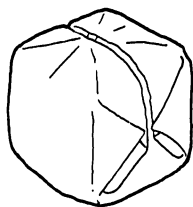
⑩折り下げる
(裏側も同じ)



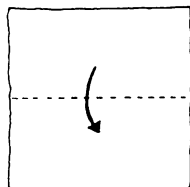
⑪ふくろに差し込む
(裏側も同じ)



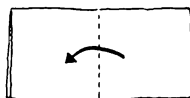
⑫穴から息を吹き込んで
ふくらませる



⑬できあがり



①折る



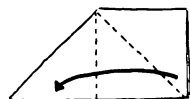
②折る



③ふくろを引き出し、
三角につぶす

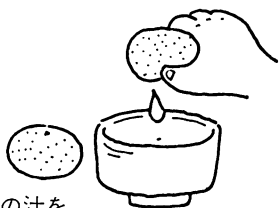


④裏返す



⑤同じようにふくろを
開いてつぶす

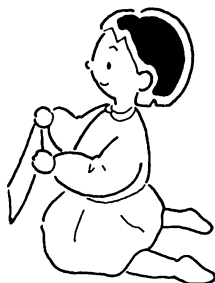
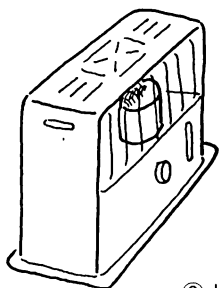
あぶり出し



①みかんの汁を、
いっぱいしぼる



②きれいな筆をみかんの
汁につけ、半紙に描い
てから自然に乾かす



③火であぶると、絵や文
字がちょっとこげて出
てくる

※子どもたちだけで遊ぶのは危険です。

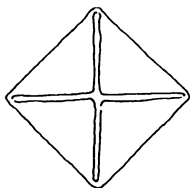
火鉢やストーブが顔を見せる頃になると、きまって、妹とあぶり出し遊びをはじめました。茶わんにみかんの汁をしぼり、半紙と筆を用意すれば、さあ始まり。相手に見られないように互いの半紙を隠しながら、好きな絵や文字をつづります。乾かした半紙を火鉢やストーブであぶると、少しずつ茶色い字が浮き上がってきます。「○○ちゃん、でべそ」など、出てきた字を見て、二人で大笑い。楽しい冬の夜のひとときでした。

みかん汁だけでなく、りんごや大根のしぼり汁、また、ろうそくで描いてもできます。

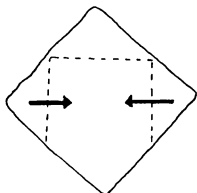
ハンカチ遊び

ハンカチかめ

①ハンカチの
四隅を折り
合わせる



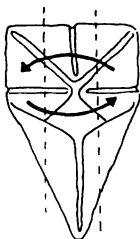
②裏返して、
三方を折る



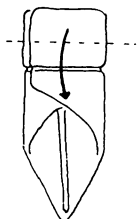
③左右から折
り合わせる



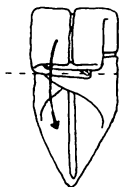
④左右から折
り合わせる



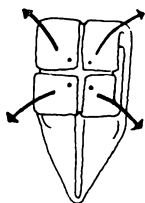
⑤折り下げる



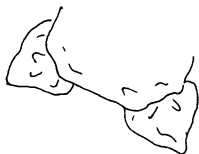
⑥もう一度折
り下げる



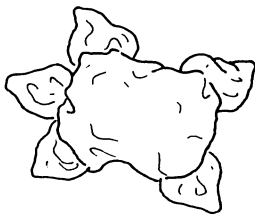
⑦四隅を開い
て足を作る



⑧足の形を整
える



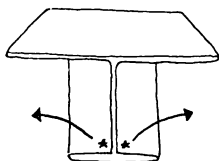
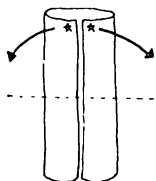
⑨できあがり



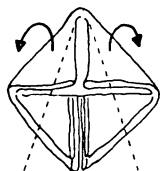
タネもしかけもないハンカチが、人形やネズミやカメに早変わりするハンカチ遊び。まるで手品でもみせるような母親の手つきがおもしろくて、何度もせがんだものです。なかでも、ハンカチバナナは小さい子どもたちにも大受けでした。

ハンカチいか

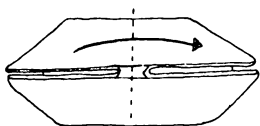
①ハンカチを
中心に折り
合わせ、★
の端を左右
に広げる



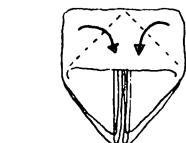
②下側も同じよう
に広げて折る



⑤裏側に折る

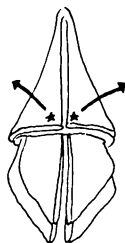


③半分に折り合わせる

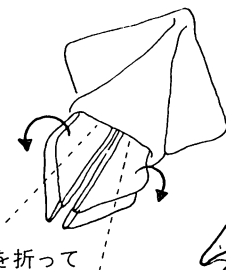


④左右を折り合わせる

⑥★部分
を左右に開く



⑦足の部分を折って
細くする



⑧できあがり

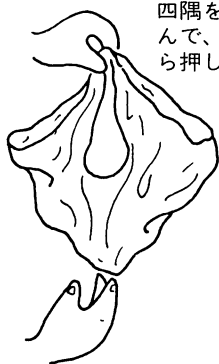
ハンカチバナナ

①ハンカチの
四隅をつま
んで、下か
ら押し込む



③四隅を、バ
ナナの皮を
むくように
折り下げる

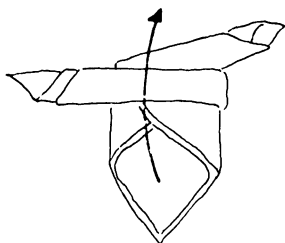
④できあがり



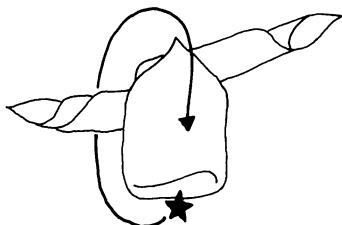
②下のところ
をつかむ



ハンカチねずみ



⑥上に折り上げる



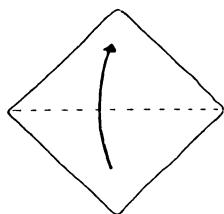
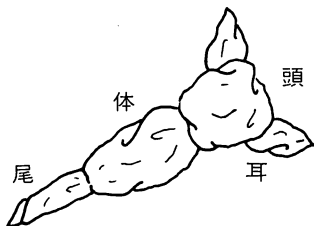
⑦★印を外側に引っばって、ぐるっと巻きこむ



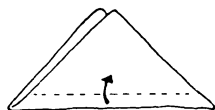
⑧両側を引っばり、頭としっぽをつくる



⑨頭を結ぶとできあがり



①ハンカチを二つに折り合わせる



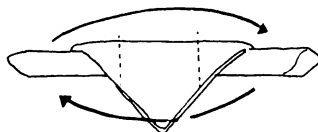
②点線の部分を折る



③もう一度折り上げる



④裏返す



⑤左右から折りたたむ

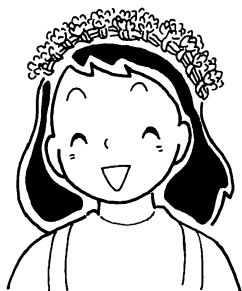
遠いあの日の唄が
きここえろ

むかし遊び

草花で遊ぶ

おしやれ遊び

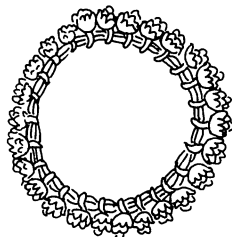
レンゲソウの花かんむり



レンゲソウの三つ編み



一本ずつからめていく



シロツメクサの花かんむり

女の子たちはおしやれ遊びの天才です。身近にあるものは何でもおしやれの道具にしてしまいます。

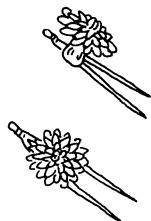
みちばた道端に色とりどりの草花が生い茂って、いたあの頃、タンポポを摘んでは指輪を、メヒシバでは髪飾りを、それにシロツメグサやレンゲソウで花かんむりや首飾りをつくるなど、野の草花でおしやれ遊びを楽しみました。

また、オシロイバナの黒い実を割って、中にあるおしろいのような白い粉を鼻筋につけたり、ホウセンカの赤い花びらを爪つめに貼はりつけてマニキュアにしてみました、次から次へおしやれ遊びを考え出しては楽しみました。

メヒシバの髪飾り



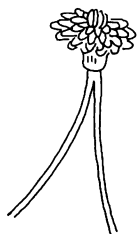
タンポポとマツ葉のかんざし



タンポポの茎を切り、
3 cm くらいさく

切れないようにむき、
束ねて穂を上げる

タンポポの腕時計



- ① 茎をたてにさく
- ② 水につけると反り返る

タンポポの指輪



オシロイバナのおしろい

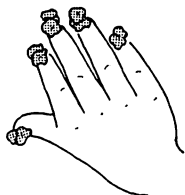


二つに割る

ホウセンカのマニキュア



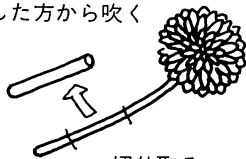
ホウセンカの花
びらを爪に貼る



草笛

タンポポの笛

一方をつぶし、
つぶした方から吹く

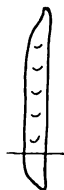


切り取る

カラスエンドウの笛



②ここに
口を当てて吹く



①ここを開いて
マメを出す

草笛くさびえを吹くと、なつかしい音色ねいろがします。昔の子どもたちは野にある草花や木の葉、木の実を片っ端から笛にしました。おなじみのタンポポも春先のやわらかい茎くきを切り取れば笛になりますし、カラスエンドウのサヤでも笛をつくれます。ササの葉は両手の間にはさみ、親指のつけ根のすき間に口を当てて吹くと、きじの鳴き声のような鋭い音すどが出ます。また、ツバキやカシの葉を巻いて巻き笛まきふエにしたり、葉を重ねて重ね笛かさねふエもできます。

スズメノテツポウの笛はどんなへたくソな子も鳴らせると人気がありました。また、クリやトチノミなどの木の実も中身をほじくり出して笛をつくりました。

巻き笛



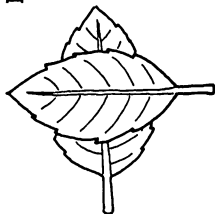
①葉先からくるくる巻く

② 5～7 cmの筒状にする



③吹き口を指でつぶす

重ね笛

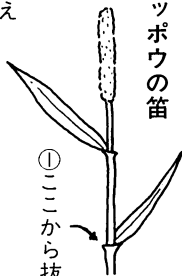


①ツバキかカシの葉を重ねて折る



②破って穴を二つあけ、穴のところをくわえて吹く

スズメノテツボウの笛



①ここから抜き取る

ササの葉の笛



①ササの葉

ここに口を当てて吹く



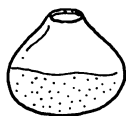
②両手にはさむ

ここをくわえて吹く

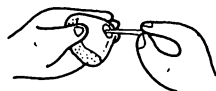


②穂を抜き、葉を下へ折る

クリの笛



①クリの頭を切る



②クギやつまようじで肉をほじくり出す



③穴に唇を当てて吹く

変装ごっこ

口ひげ



トウモロコシ



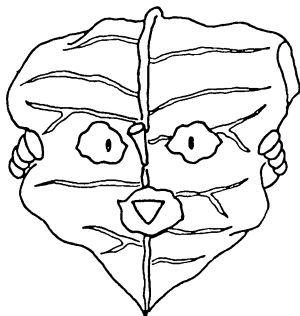
エノコログサ



子どもたちは変装ごっこが大好き。今の子どもたちがテレビの主人公に変身して夢中になるように、昔の子どもたちは忍者ごっこや草花を使った変装ごっこに熱中しました。

わんぱく坊主たちは、野山で見つけた草花でゆかいな変装をして遊びました。サトイモの葉のお面をつけて天狗に変身したり、ホオの葉のお面にスキのひげをつけてキツネに変身したり。またマツ葉のメガネをかけたたり、エノコログサを口ひげにして先生の声色をまねてみたり。中には固い茎をまぶたにはさんで目をつり上げてみせる子も。お互いの変装ぶりを見合っては大笑いしたものでした。

天狗のお面

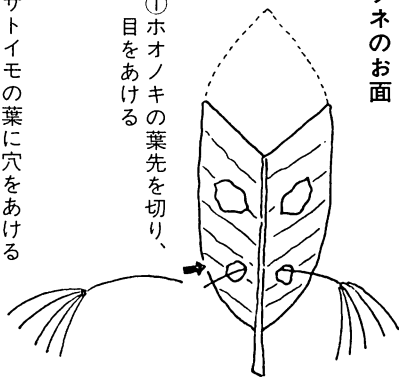


②茎を天狗の鼻にする

①サトイモの葉に穴をあける

キツネのお面

①ホオノキの葉先を切り、
目をあける



②ススキの穂を差し込む

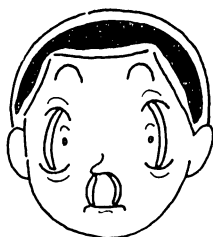
マツ葉のめがね



マツ葉を刺しつないで
めがねを作る



③口ですすきをくわえる



遠いあの日の唄がきこえる

むかし遊び

執筆 柳生 雅子
さし絵 岩崎 牧子
発行 株式会社

TEL 〇七五・二三三・一三四五

乱丁・落丁はお取りかえいたしません。

Seisaku Association of Japan
 佐藤 策一
HEICHI SATO